

奈良県感染症発生動向調査事業報告

令和5年 内科・小児科感染症の概要

1. 令和5年の流行状況(定点当たり)

令和5年(1月～12月の合計)の定点当たり報告数[報告実数]は、多い順から①インフルエンザ(407.62)[22,419人]、②新型コロナウイルス感染症(280.13)[15,407人]、③感染性胃腸炎(239.88)[8,156人]、④A群溶連菌咽頭炎(95.79)[3,257人]、⑤咽頭結膜熱(86.47)[2,940人]、⑥RSウイルス感染症(58.32)[1,983人]、⑦ヘルパンギーナ(48.44)[1,647人]、⑧手足口病(19.29)[656人]、⑨突発性発しん(13.15)[447人]、⑩水痘(4.29)[146人]、⑪流行性耳下腺炎(1.53)[52人]、⑫伝染性紅斑(0.47)[16人]であった。

2. 地区別(保健所別)の報告数(定点当たり)の状況(県平均との比較)

地区別(保健所別)で県平均以上の報告数があった疾病は、奈良市保健所(3疾患)：手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、郡山保健所(4疾患)：新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎、手足口病、流行性耳下腺炎、中和保健所(東)(3疾患)：RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、水痘、中和保健所(西)(10疾患)：12疾患のうち水痘と流行性耳下腺炎を除く10疾患、吉野保健所(2疾患)：新型コロナウイルス感染症、水痘であった。

3. 月別の発生状況(定点当たり)

各疾病の月別流行状況を見てみると、2月が最多であった疾患は伝染性紅斑0.09(3人)の1疾患であった。以下、3月(1疾患)：感染性胃腸炎32.21(1,095人)、5月(1疾患)：伝染性紅斑0.09(3人)(=2月と同数)、6月(5疾患)：RSウイルス感染症21.50(731人)、伝染性紅斑0.09(3人)(=2月と同数)、突発性発しん1.65(56人)、ヘルパンギーナ24.15(821人)、流行性耳下腺炎0.32(11人)、8月(2疾患)：新型コロナウイルス感染症90.51(4,978人)、水痘0.65(22人)、11月(4疾患)：インフルエンザ106.45(5,855人)、咽頭結膜熱28.15(957人)、A群溶連菌咽頭炎17.03(579人)、伝染性紅斑0.09(3人)(=2月と同数)、12月(1疾患)：手足口病3.26(111人)であった。なお、1月、4月、7月、9月、10月が最多であった疾患はなかった。

4. 世代別(1歳平均)での報告数の状況

乳児期[0歳]が最多であった疾患は、新型コロナウイルス感染症(359.0人)、RSウイルス感染症(484.0人)、突発性発しん(106.0人)の3疾患であった。幼児期[1～5歳]が最多であった疾患は、咽頭結膜熱(459.6人)、A群溶連菌咽頭炎(320.4人)、感染性胃腸炎(957.8人)、手足口病(116.8人)、伝染性紅斑(2.4人)、ヘルパンギーナ(274.0人)、流行性耳下腺炎(5.0人)の7疾患であった。学童期[6～14歳]が最多であった疾患は、インフルエンザ(1179.6人)、水痘(9.8人)の2疾患であった。思春期[15～19歳]、成人期[20～59歳]、高齢期[60歳～]が最多の疾患はなかった。

柳生善彦 記

インフルエンザ／COVID-19 定点分
(小児科定点・内科定点)

1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

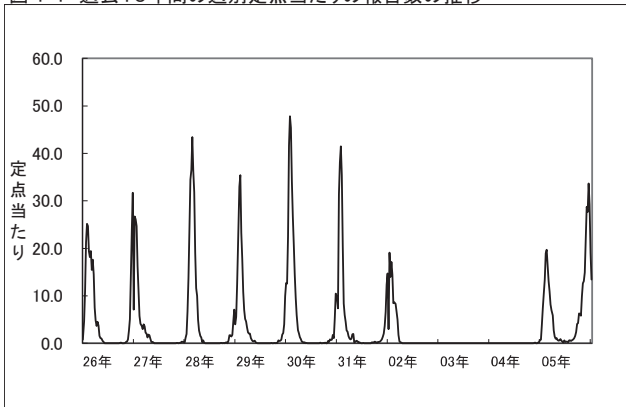


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

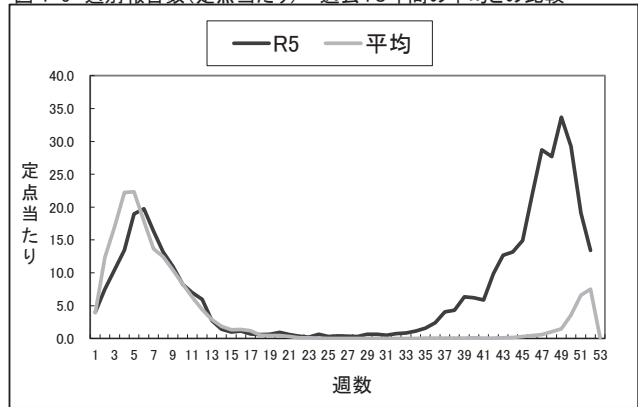


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

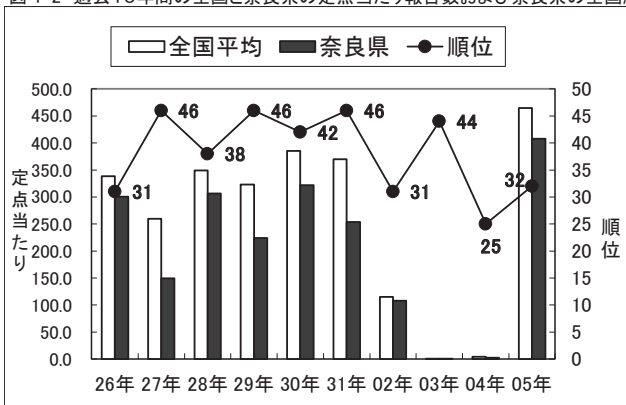


図 1-6 年齢別報告数(実数)

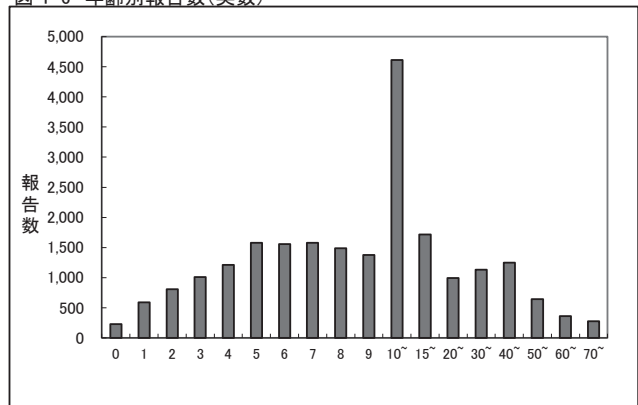
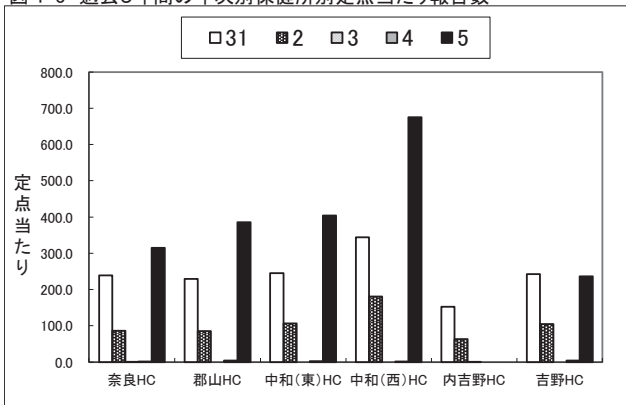
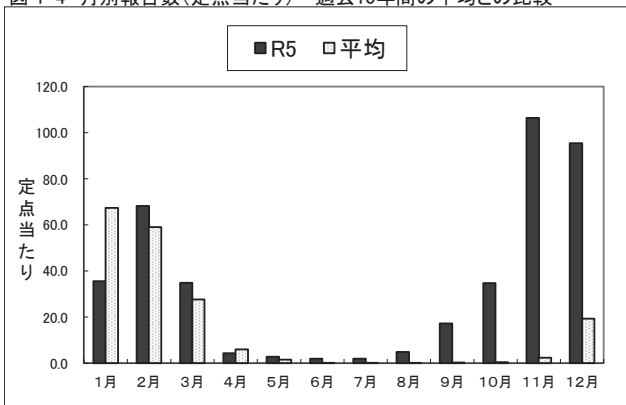


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

・令和3年~4年とは著明に異なり、令和5年には、インフルエンザ感染のアウトブレイクが1年間に2回認められた。さらにその流行パターンは、コロナ以前の平均的な流行パターンとも異なる特徴を示していた。

・年初の感染拡大は、例年時期より少し遅い立ち上がりで、ピークの感染者数はほぼ例年通り。しかし、秋季以降の感染拡大は、例年よりも立ち上がり時期が大幅に早い8月下旬頃に始まり、11月頃にピークとなり、最大感染者数は例年の1.5倍となった。

・令和5年はコロナ明けとして、全国的にインフルエンザの感染拡大がみられたため、奈良県が全国平均値を超えるものではなかった。

・地域的には中和保健所(西)管内が突出しており、年齢属性では、乳幼児が総じて高い傾向だが、10代前半頃までは感染好発年齢とみられた。

(鈴木 滋生 記)

2.新型コロナウイルス感染症（※R5年第19から5類定点報告疾患に移行しました）

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

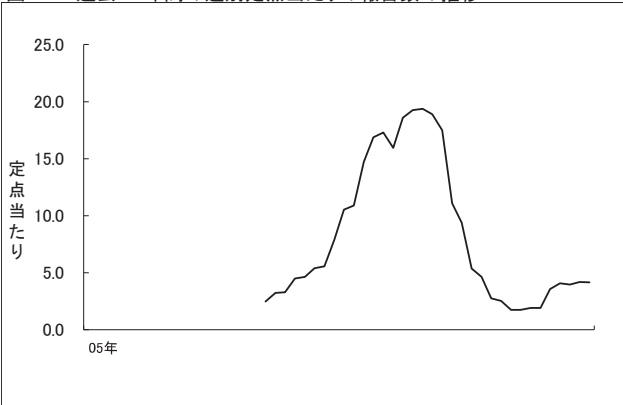
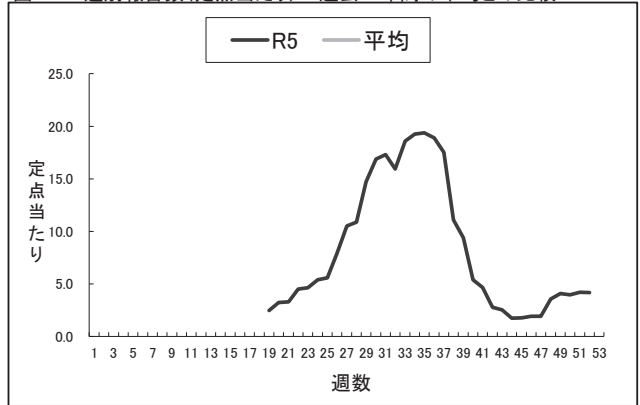
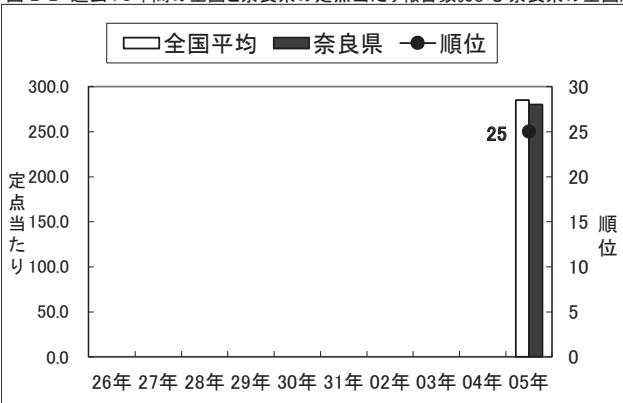


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



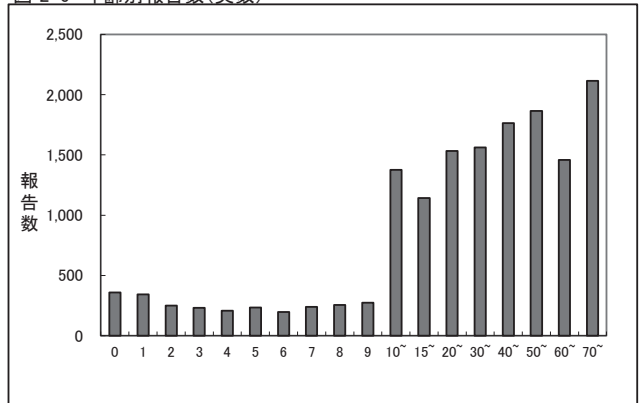
※過去の平均データなし。

図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位



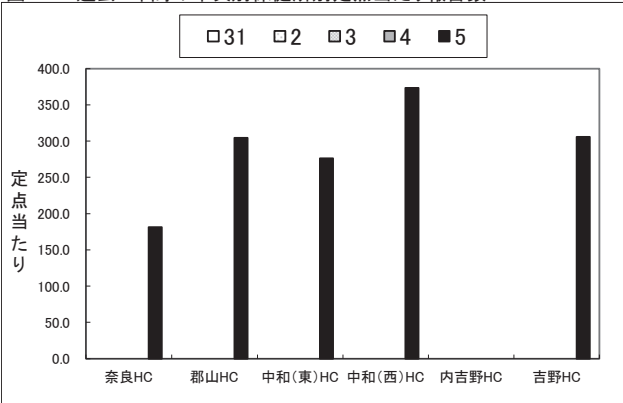
※R5年第19～52週の合計になります。

図 2-6 年齢別報告数(実数)



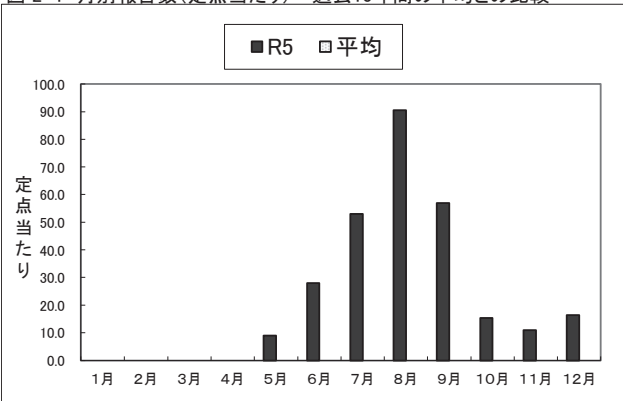
※R5年第19～52週の合計になります。

図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。
※R5年第19～52週の合計になります。

図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



※5月は3週分(第19～21週)の合計になります。

コメント

・令和5年5月の5類移行後、新型コロナウイルス感染症のサーベイランスは、インフルエンザなどと同様に定点報告に切り替えられた。それ以前の報告様式とは大きく変わっており、5類移行前後での単純比較はできない。

・定点報告開始後は増加トレンドが続き、同年8月にピークを示している(第9波)。秋以降はいったん収束傾向となったが、年末時期になって令和6年年初の第10波につながっていく緩徐な増加が再びみられた。

・5類移行後の患者報告数において、奈良県は全都道府県の中位付近。

・年齢属性としては、年齢階級幅を合わせると10歳未満が好発年齢であることがわかるが、他の感染症と比較して、年齢差が少なく、すべての年齢層に一定の患者数が存在する。

・地域別傾向としては、県内保健所管轄で中和保健所管内での報告数が軽度に多く、奈良市保健所管内が軽度に少ない印象。

(鈴木 滋生 記)

小兒科定点分

3.RSウイルス感染症

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

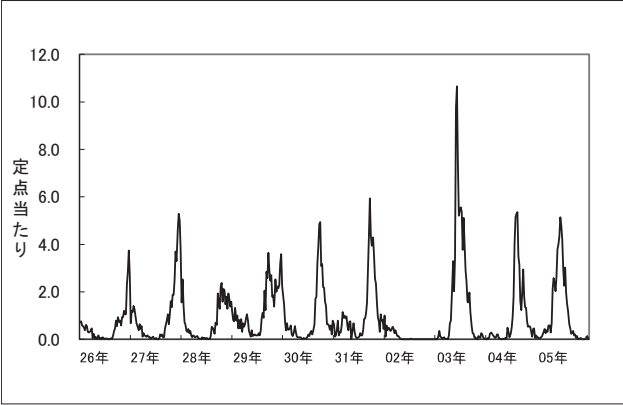


図3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

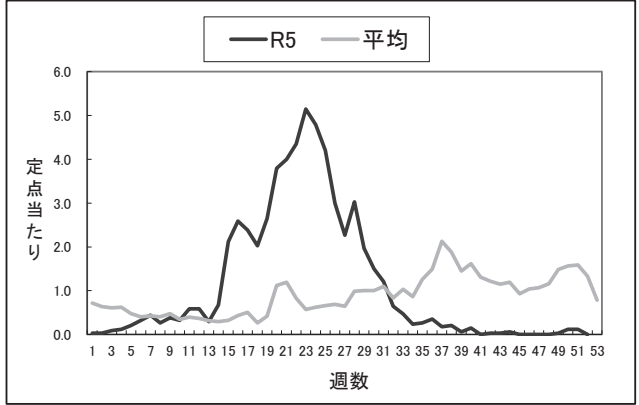


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

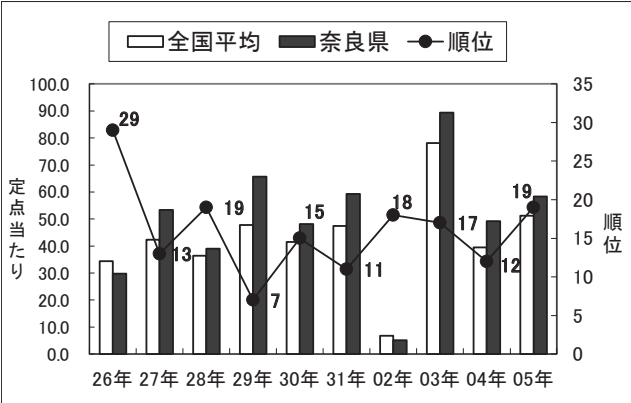


図 3-6 年齢別報告数(実数)

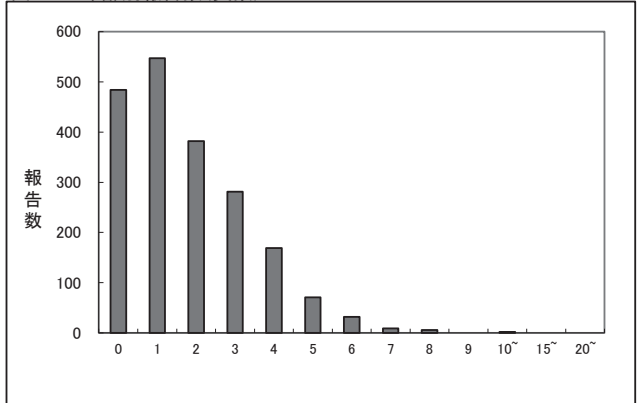
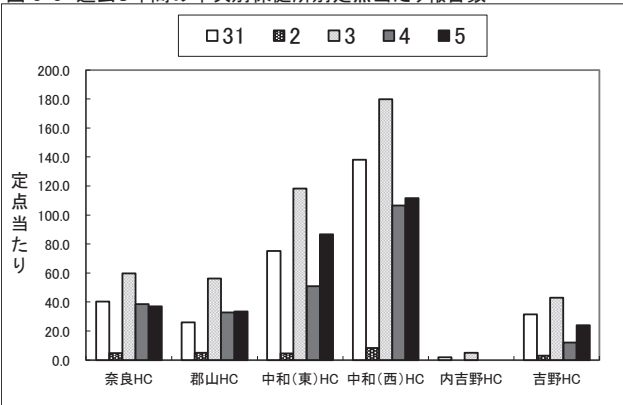
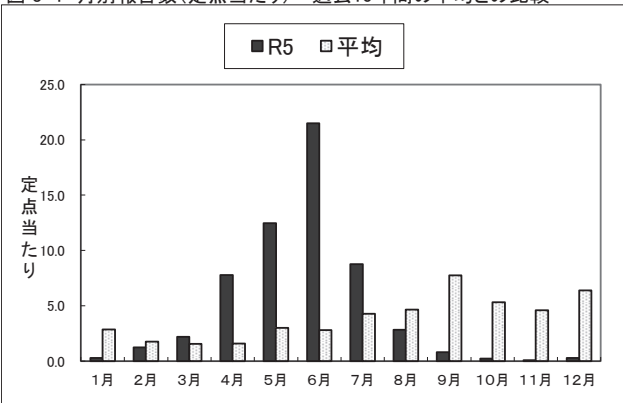


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

・RSウイルス感染症は、一般的には冬季に流行する感染症であるが、令和5年においては、4月頃から上昇傾向が顕著となり、6月のピーク時には例年平均報告数の7倍以上となる21.5/月の大流行となった。

・ただし、その流行期間は短く、その後は比較的すみやかに減少に転じ、例年にみられるような年末時期の感染流行は認められなかった。

・奈良県の年間を通した報告数は、全国平均よりは少し多いものの、総じて中位の範囲と思われる。

・年齢属性としては乳幼児全般に好発しているが、特に0歳～1歳にその発症ピークがみられる。

・県内地域別では、中和保健所管内で報告数が多く、例年と同様のトレンドである。

(鈴木 滋生 記)

4.咽頭結膜熱

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

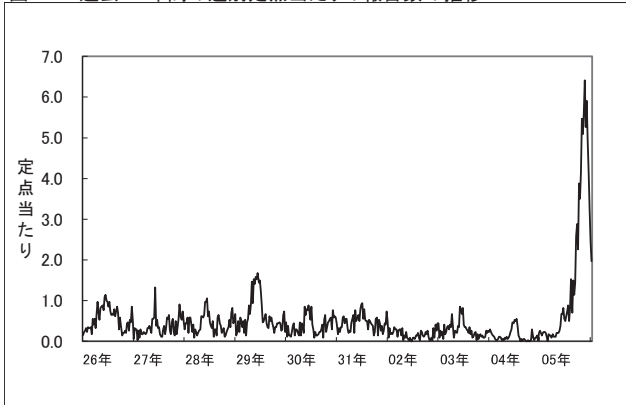


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

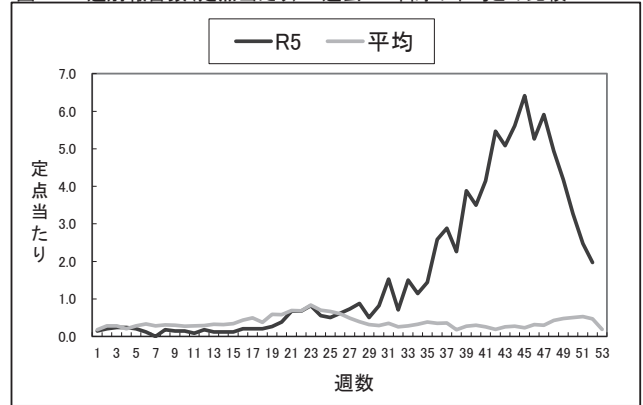


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

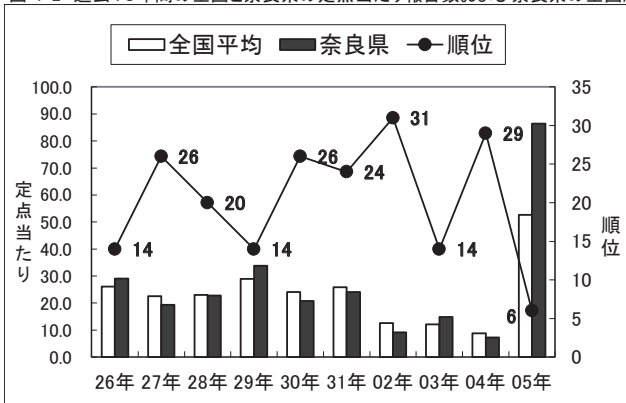


図 4-6 年齢別報告数(実数)

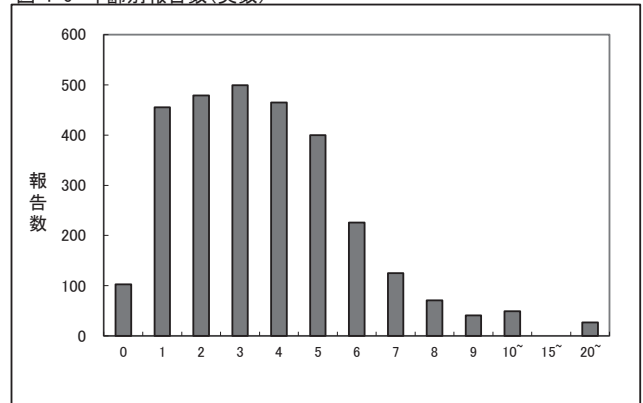
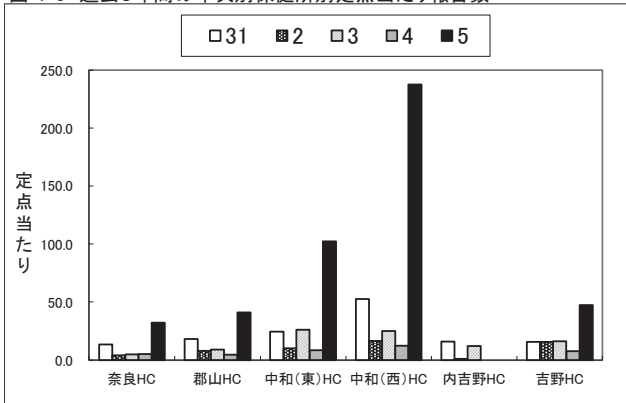
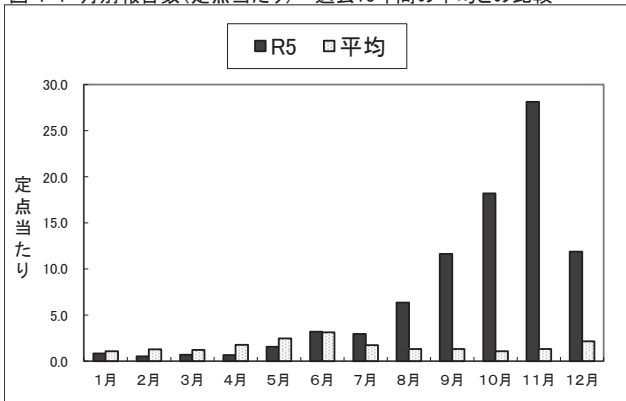


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

・令和5年における咽頭結膜熱の感染報告者数は、例年に比べて顕著な増加がみられた。全国的にも咽頭結膜熱の流行年であったが、そのなかでも奈良県は全国順位6位として、著明な感染拡大がみられた。

・感染時期については、最初の増加で例年同様に6月に小さなピークを迎えたのちに、8月以降に再度増加トレンドとなり、長く持続した結果、11月に定点報告数が6.0/週を超えることとなった。その後、12月からようやくピークアウトとなった。

・好発年齢は10歳未満であり、特に1歳～5歳くらいの幼児年齢に多発した。

・保健所管内別では、中和(西)保健所管内で突出して報告数が多く、他の県内3保健所管内との地域差が明瞭に認められた。

(鈴木 滋生 記)

5.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

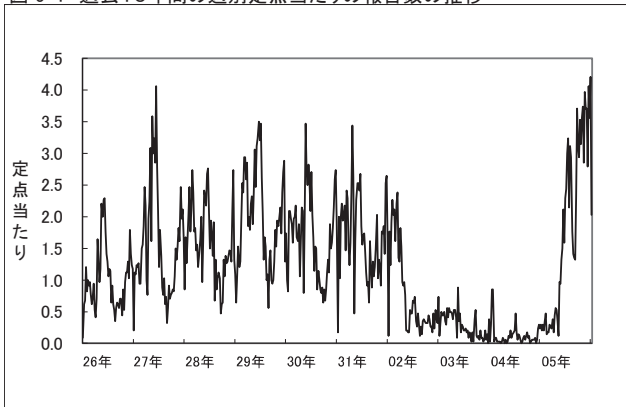


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

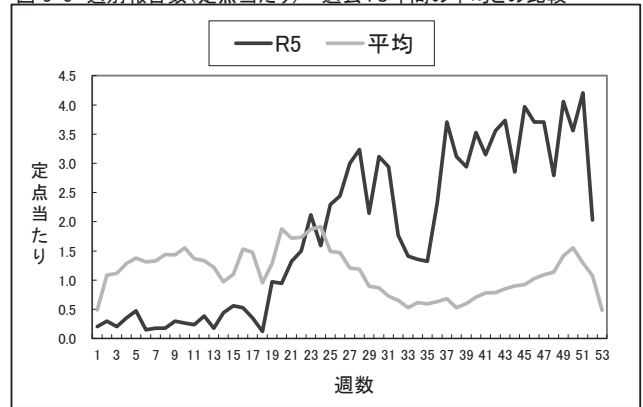


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

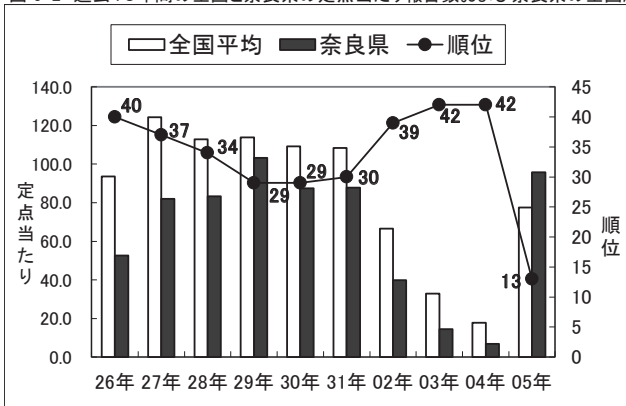


図 5-6 年齢別報告数(実数)

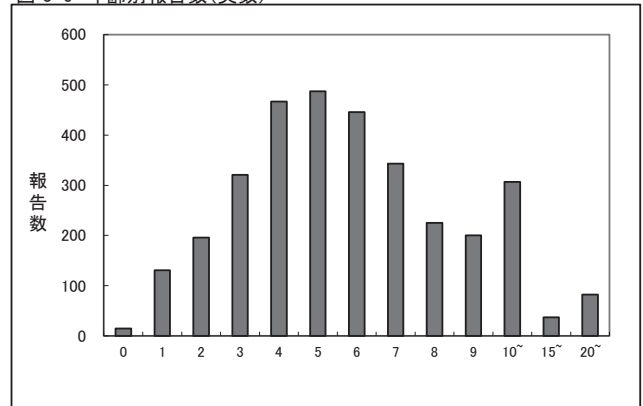
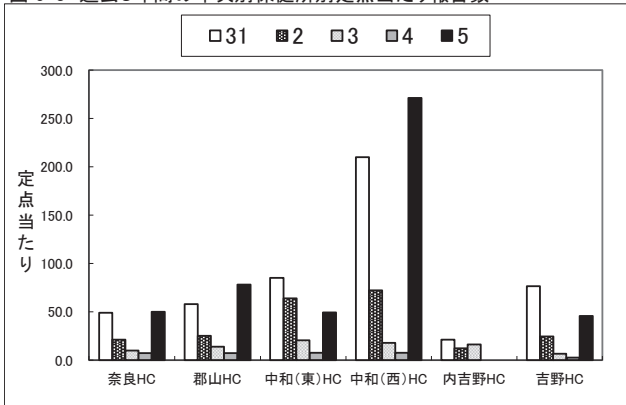
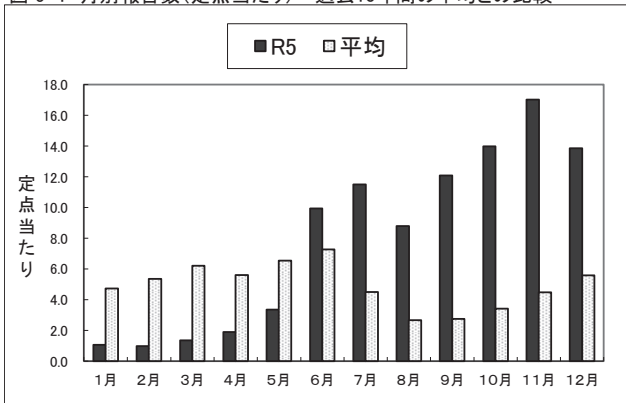


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年における全報告数は3257例、定点あたり95.8で、前年の約14倍、過去10年間で2番目に多かった。全国的にも前年と比べ4.35倍の増加を示しているが、奈良県は過去10年間で初めて全国平均(77.4)を上回り、全国順位も過去最高の13位となった。
新型コロナウイルス感染症の5類移行後、他の呼吸器系感染症と同様、感染拡大している。
保健所定点あたりの報告数は、中和(西)で過去5年間の最大となり、次いで郡山、奈良市、中和(東)、吉野であった。

月別定点あたり報告数は6月以降急増する。過去10年の平均を上回り、夏のピーク以降はあまり減少せず冬のピークを迎えている。
週別定点あたり報告数も、22週までは過去10年間の平均を下回っているがその後急増した。32～35週ごろいったん落ち込み、36週から再度急増、その後は冬のピークに向け増加を続けた。
いずれも、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、社会経済活動が通常化したことによる感染拡大と考えられる。

年齢別の実報告数では5歳をピーク(487例)に分布、例年通り0～9歳で全体の87%を占めていた。

※報告が増えている国内のSTSS(劇症型溶血性レンサ球菌感染症)患者の一部において、病原性・伝搬性が高い英国由来の系統株の集積が確認されているが、咽頭炎の報告数増加との関連は不明とされている。

(水野 文子 記)

6. 感染性胃腸炎

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

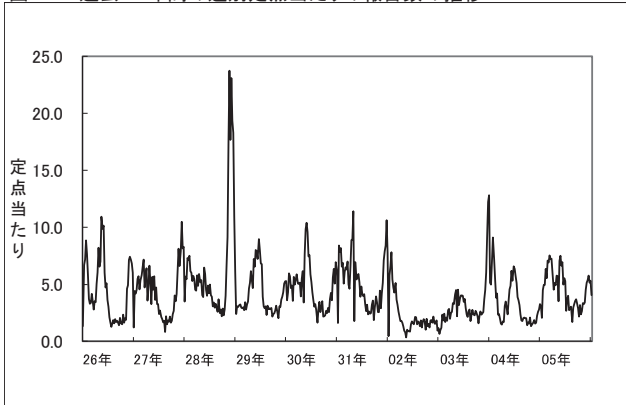


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

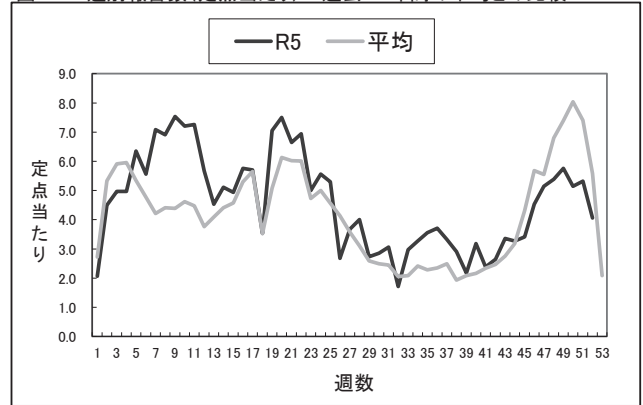


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

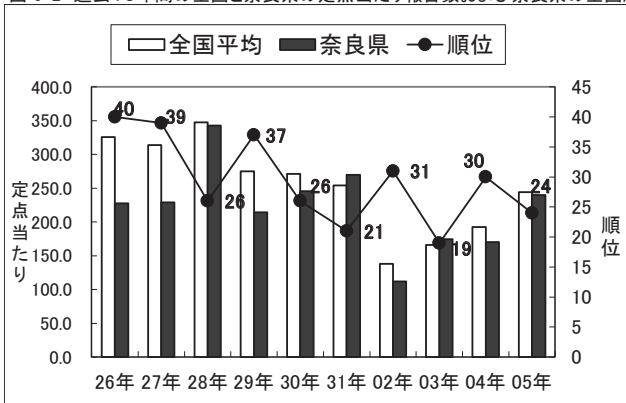


図 6-6 年齢別報告数(実数)

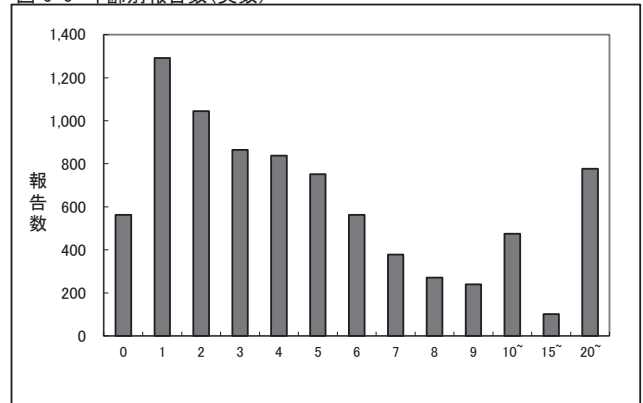
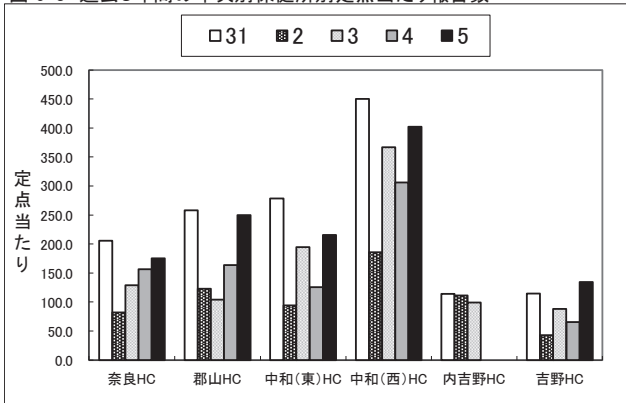
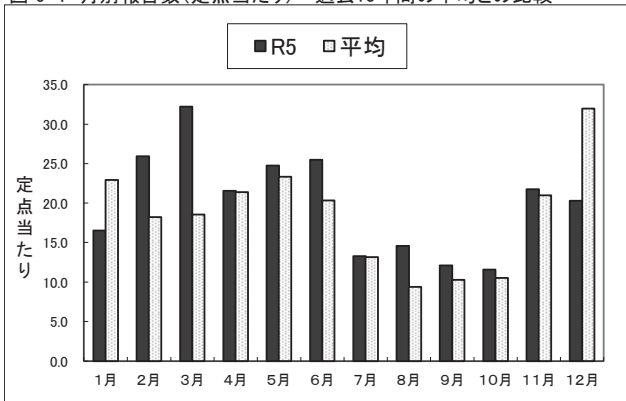


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年における全報告数は8,156例、定点あたり239.9で、令和4年より増加している。全国平均(定点あたり244.0)とほぼ同じで、新型コロナウイルス感染症流行後減少していたが、平成の終わりごろの報告数に戻った。

保健所別定点あたり報告数は中和(西)が最多、次いで郡山、中和(東)、奈良、吉野で、吉野を除く4つの地域ではいずれも平成31年に次ぐ報告数となった。

月別定点あたり報告数は、例年の冬のピークが遅れて3月となり、やや減少後6月に小ピーク、7月以降は減少、11月、12月に再度報告数が多くなっている。

週別定点あたり報告数は、年初めのピークが9週にあり、20週ごろに初夏のピーク、49週ごろに初冬のピークで過去10年とほぼ同様の傾向で推移した。

年齢別の実報告数は、例年と同様1歳(1,291例)が最多で、0歳(562例)、2歳(1,045例)、3歳(864例)、4歳(838例)、5歳(751例)の乳幼児期で全体の66%を占めている。

新型コロナウイルス感染症流行時は、感染防止対策の徹底や外出自粛などにより報告数が減少していたが、令和5年は、全国でも奈良県でもほぼ流行前の数に戻っている。

(水野 文子 記)

7.水痘

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

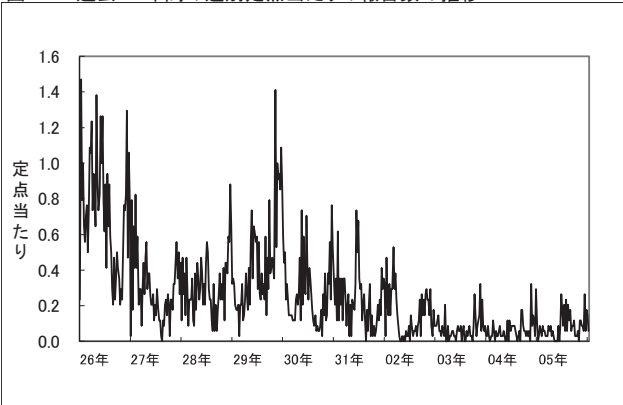


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

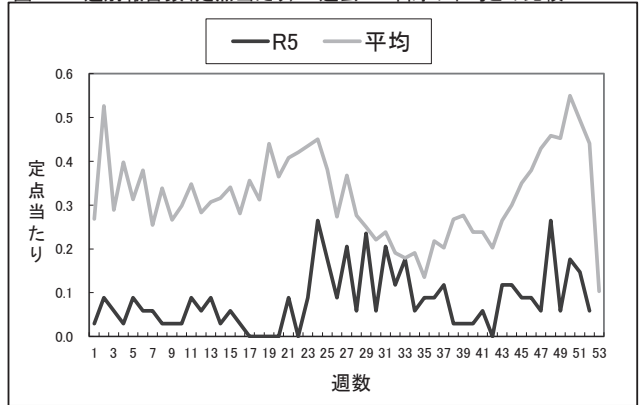


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

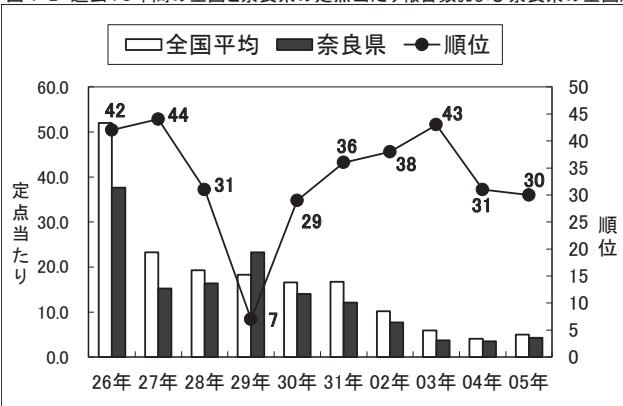


図 7-6 年齢別報告数(実数)

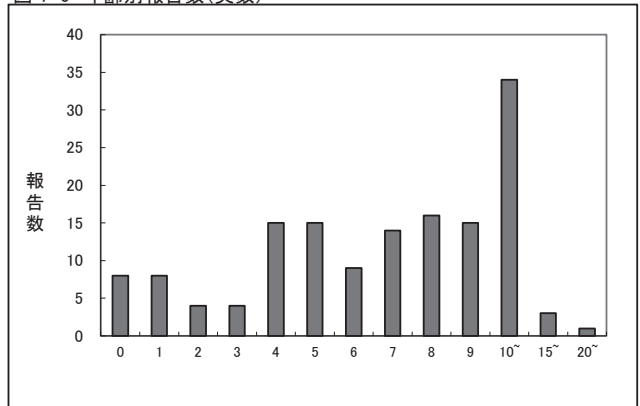
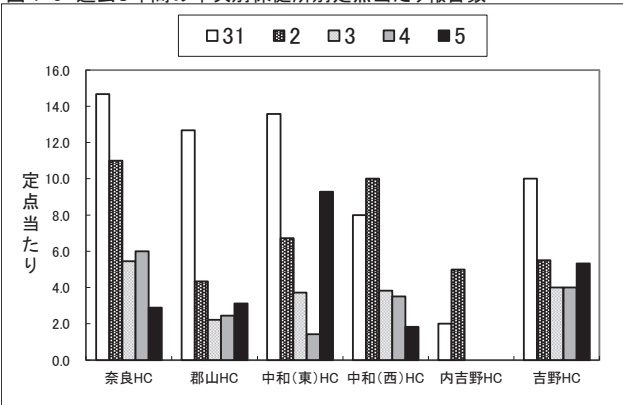
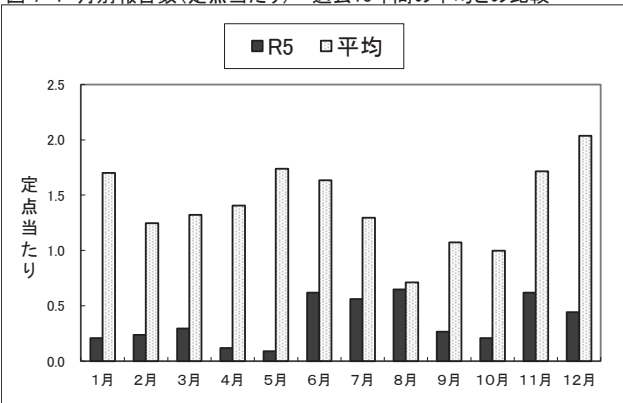


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年における全報告数は146例、定点当たり報告数は4.29(全国5.02)で前年より増加している。全国的にもやや増加しており、奈良県の全国順位は昨年とほぼ同じである(31位→30位)。

保健所別定点当たりの報告数は、中和(東)で急増し最多、次いで吉野、郡山、奈良市、中和(西)で奈良市、中和(西)は昨年より減少している。

月別定点当たり報告数は、1月～初夏は少なかったが、夏場(6～8月)と初冬(11、12月)は過去10年間の平均と同様に多く、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、感染の機会が増えたと考えられる。

週別定点あたり報告数も、過去10年間平均と比べ、冬場は少なく、24～37週、43～51週にピークがあり、新型コロナウイルス感染症の5類移行で、夏場のピークが戻っている。

年齢別の実報告数は、0歳と1歳が8例、2歳、3歳が4例、4～9歳が9～16例で、定期的2回接種が定着してきている。(定期接種開始後8年)

全国において、ワクチン接種前の0歳児では、祖父母・父母の帯状疱疹が感染源とされる報告も一定数あるとされている。

(水野 文子 記)

8.手足口病

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

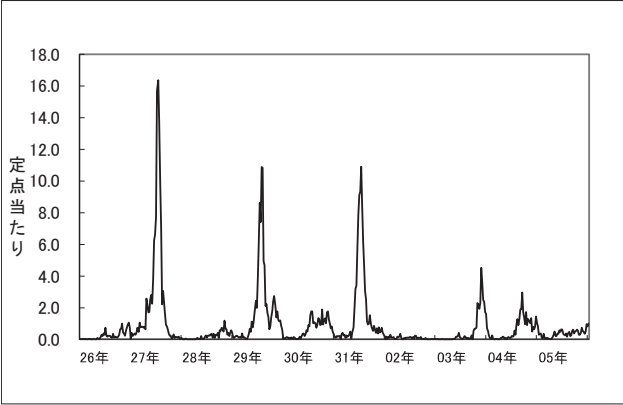


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

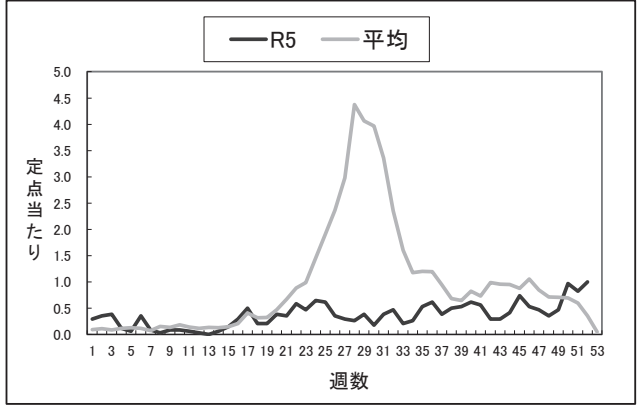


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

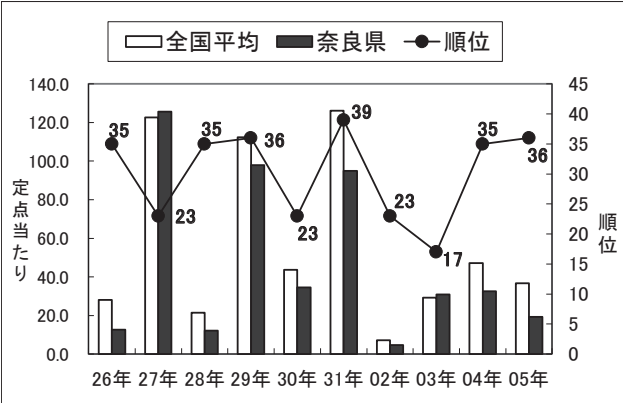


図 8-6 年齢別報告数(実数)

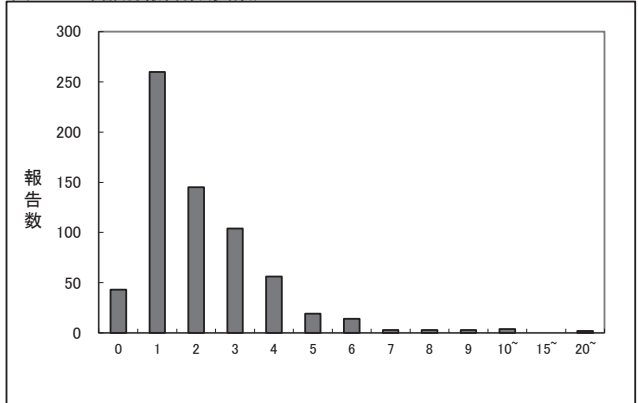
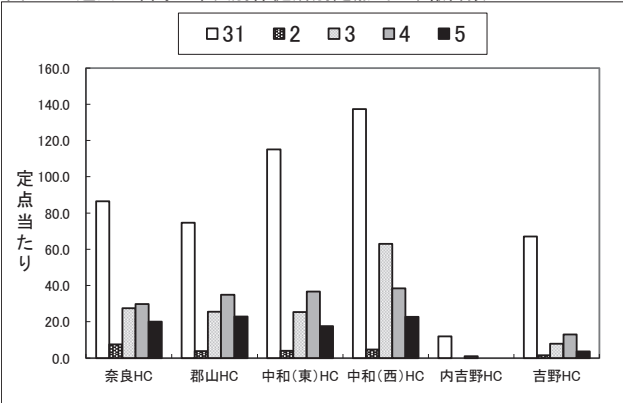
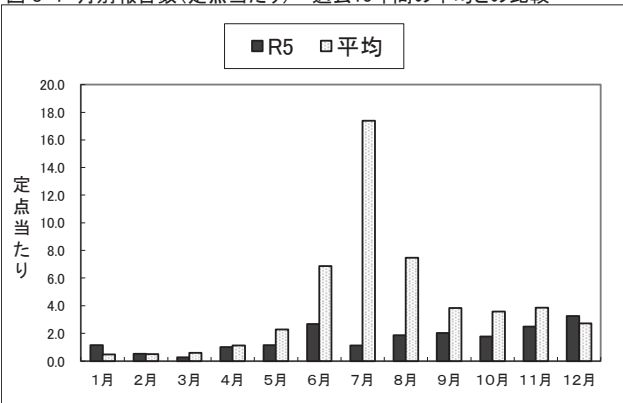


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年の手足口病の報告数は例年より低値であった。ただし、ピークに関しては少ないながらも第52週に認められており、夏期に流行のピークのある例年とは異なる動きとなっていた。年齢別としては5歳未満に多く、かつ地域別でも明らかな差は認められなかった。

(宇野 健司 記)

9.伝染性紅斑

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

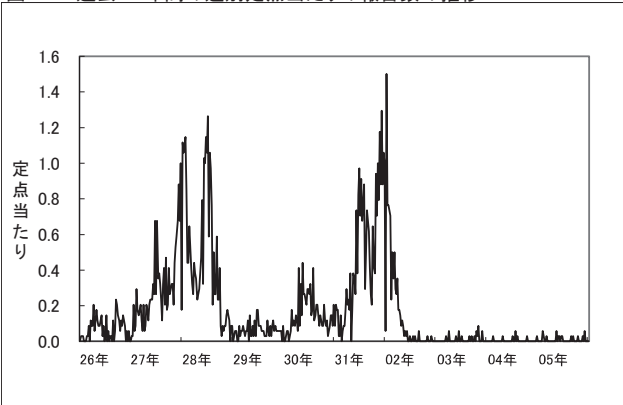


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

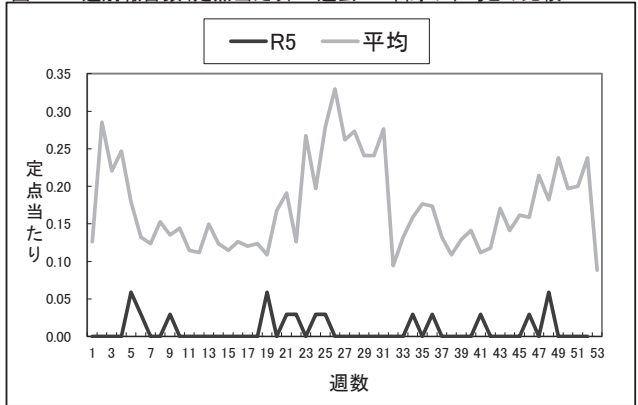


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

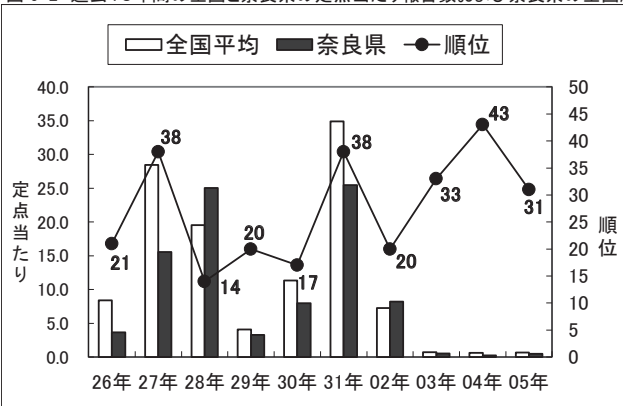


図 9-6 年齢別報告数(実数)

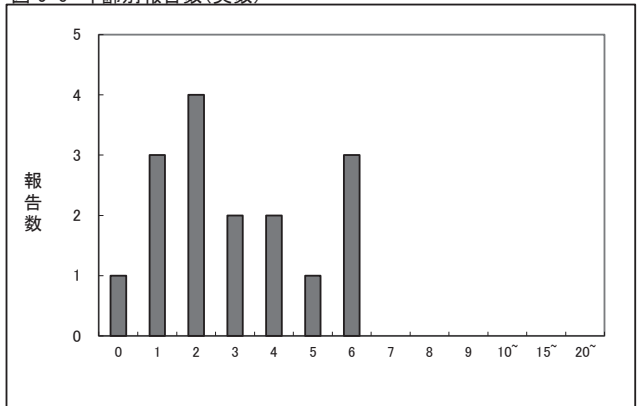
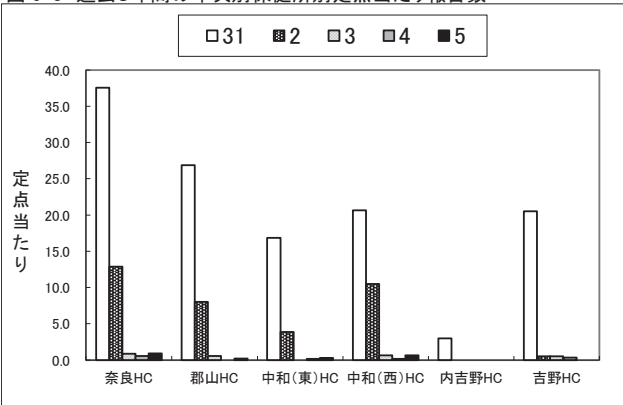
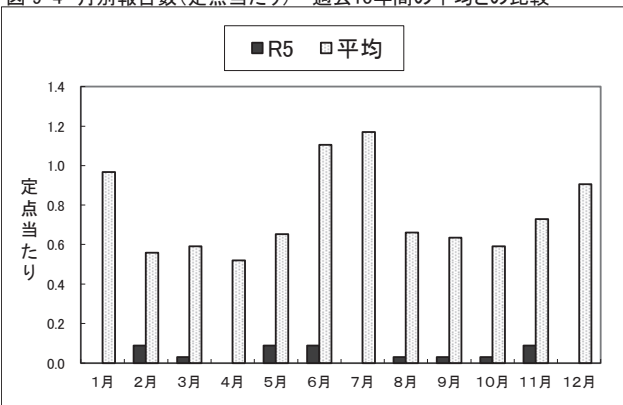


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

伝染性紅斑に関して、令和5年の定点あたりの報告数は令和2年と比較し少なかった。県内の地域別で確認しても、令和2年度と比較し報告が少ない状態が続いていた。COVID-19に対してのマスクなどの飛沫感染対策が有効に働いていたと考えられる。マスクの緩和などが始まっている状況であり、今後の症例数の変化は注目すべき疾患と考えられる。

(宇野 健司 記)

10.突発性発しん

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

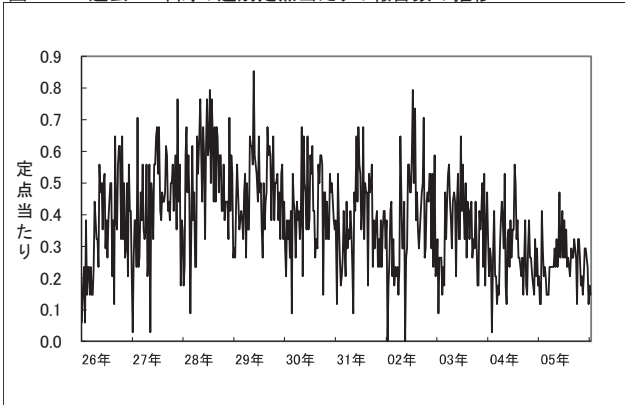


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

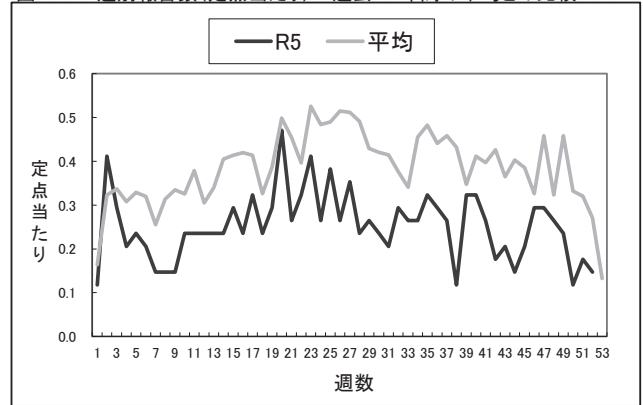


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

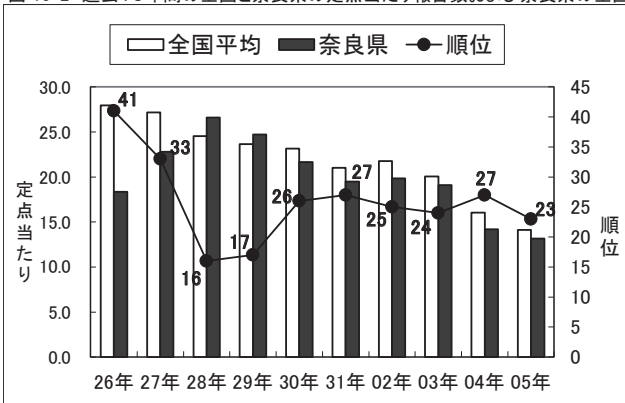


図 10-6 年齢別報告数(実数)

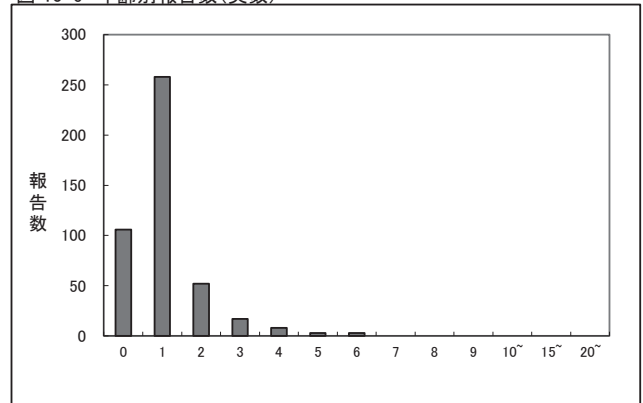
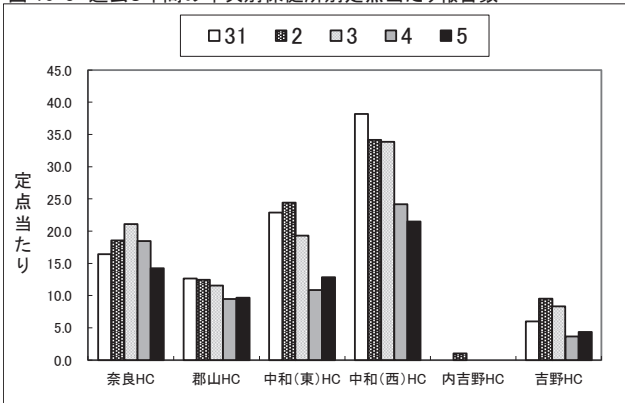
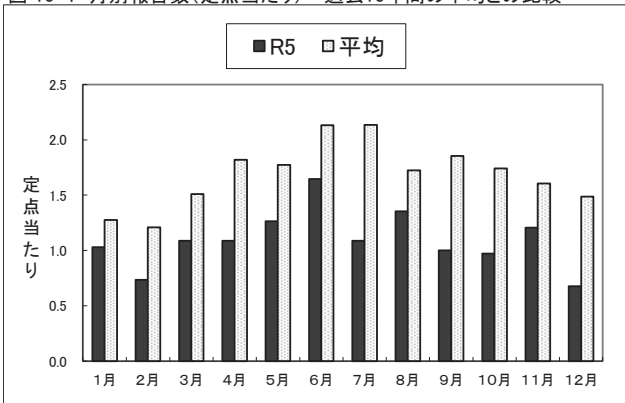


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年における定点あたりの報告数は13.1であり、例年の平均と比較すると全体的に低下傾向であった。全国との報告状況の比較では奈良県の報告数は同じような流行状況であった。保健所別の報告数毎での大幅な変化はなく、定点あたりの報告数は令和2～3年と比較すると減少傾向にあった。好発年齢も4歳以下と例年と変化はなかった。

(宇野 健司 記)

11.ヘルパンギーナ

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

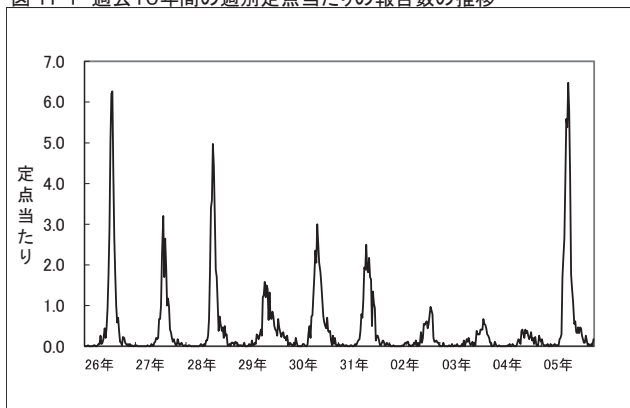


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

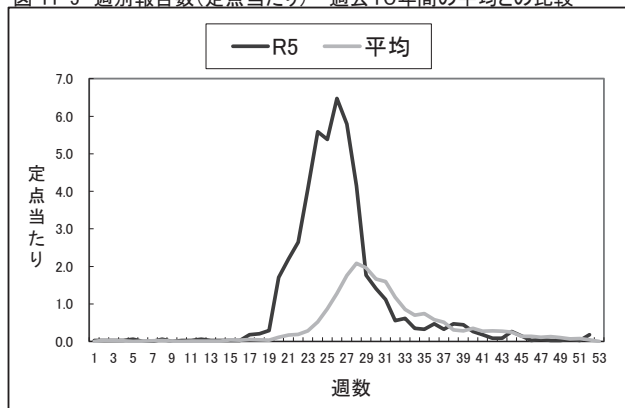


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

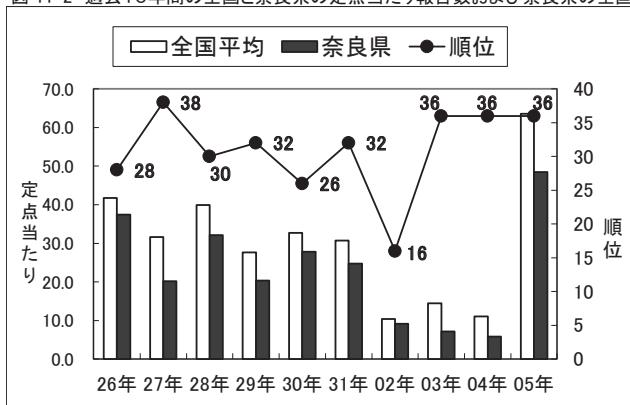


図 11-6 年齢別報告数(実数)

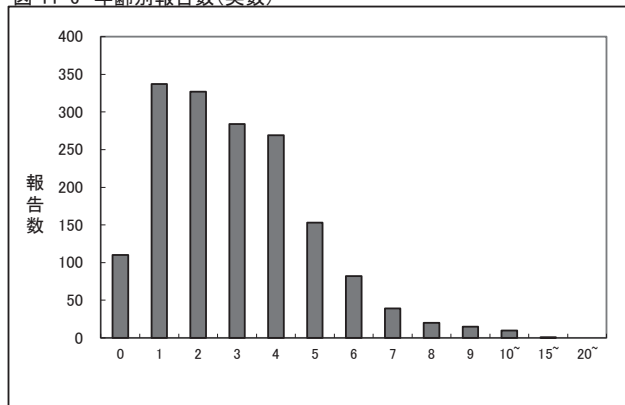
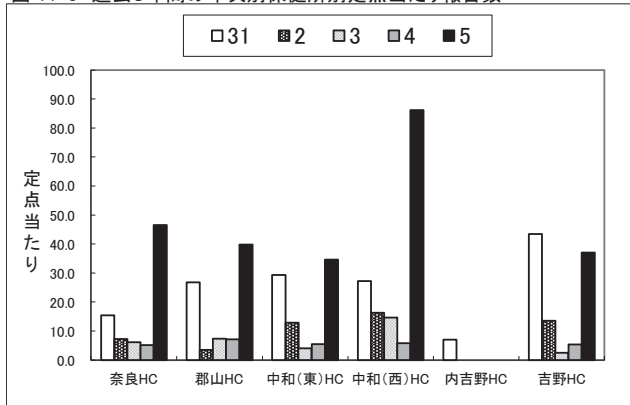
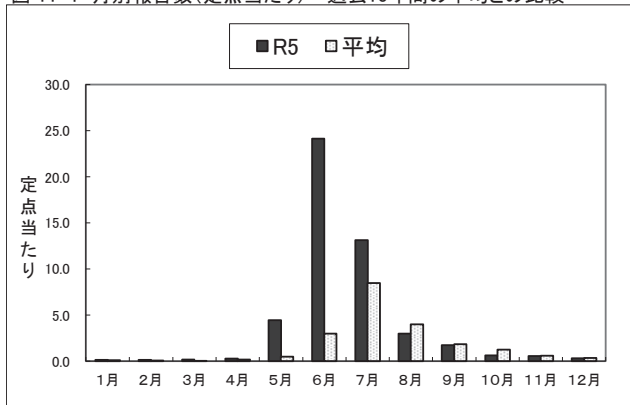


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

R5の奈良県の報告数は1,647人(定点当たり48.44)であった。

【図11-1】過去10年間での最大の週は、これまでH26の第29週(6.26)(213人)であったが、R5の第26週(6.47)(220人)が最大の週となり、過去10年間でピークの高さが最も高い年となった。

【図11-2】全国平均は、R5(63.56)が過去10年で最多であった。奈良県もR5(48.4)が過去10年で最多であったが全国順位は第36位で、10年連続で全国平均を下回った。

【図11-3】R5は、①中和(西)(86.17)、②奈良市(46.56)、③郡山(39.78)、④吉野(37.00)、⑤中和(東)(34.57)の順であった。また、同一保健所管内での過去5年間の推移では、奈良市、郡山、中和(東)、中和(西)においてR5が過去5年間での最多であった。吉野はH31が最多で、R5はその次となった。

【図11-4】最多の月は、10年平均が7月(8.47)で、R5は6月(24.15)であった。

【図11-5】最多の週は、10年平均が第28週(2.08)で、R5は第26週(6.47)(220人)であった。

【図11-6】0歳が110人。1歳が337人で最多であった。以下、9歳(15人)まで年齢が高くなると共に漸減傾向であった。また、年齢階級別報告数は[10-14歳](10人)、[15-19歳](1人)であった。

(柳生 善彦 記)

12.流行性耳下腺炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

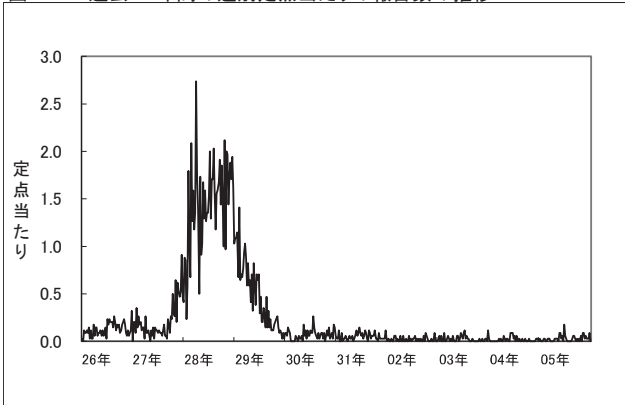


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

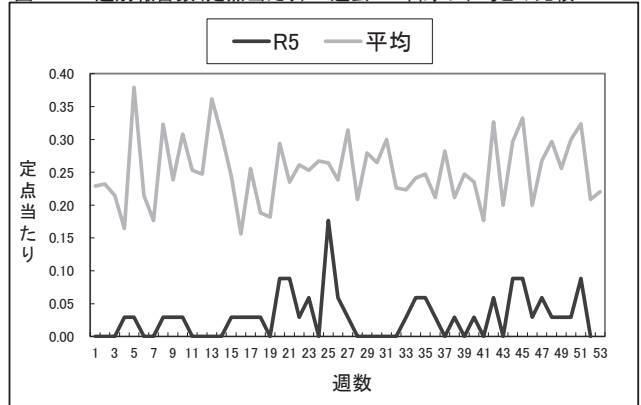


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

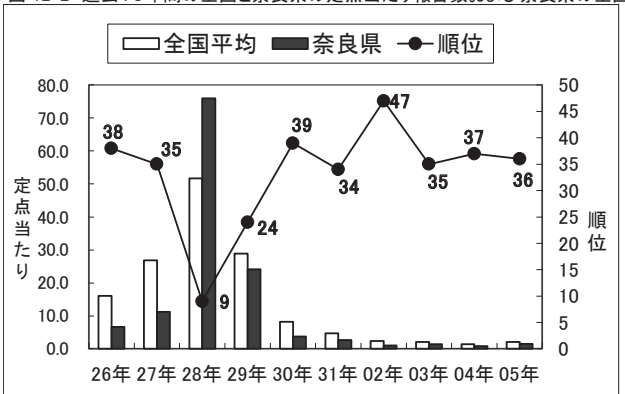


図 12-6 年齢別報告数(実数)

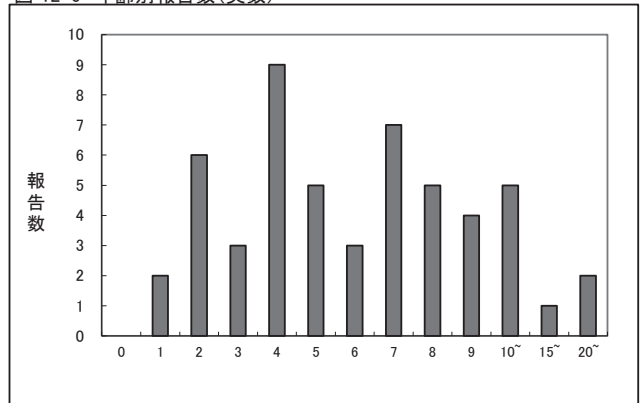
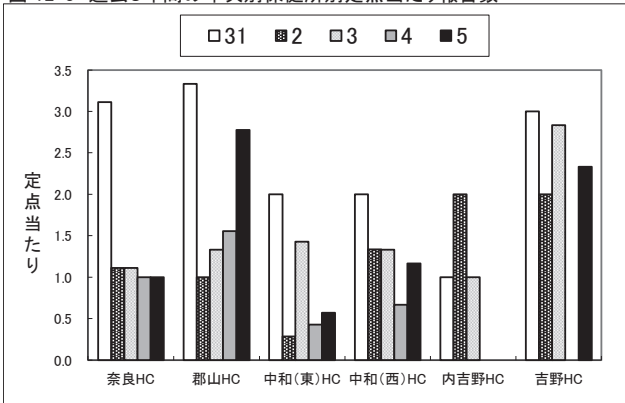
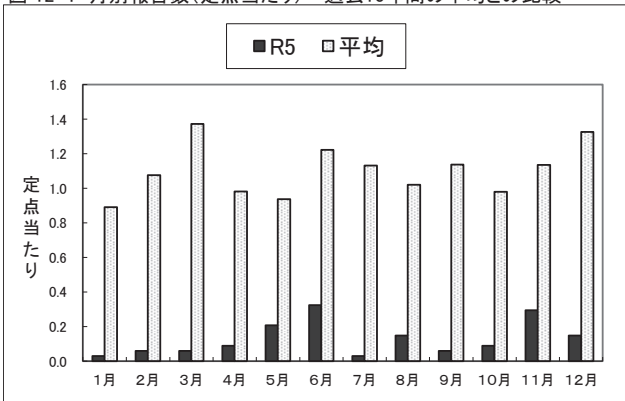


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

R5の奈良県の報告数は52人(定点当たり1.53)であった。

【図12-1】過去10年間での最多の週は、H28の第13週(2.74)(93人)であった。H30～R5は、H30の第29週の0.62(9人)以下での推移であった。

【図12-2】全国平均はR5(2.06)で、奈良県はR5(1.53)(36位)であった。過去10年間で奈良県の方が上回っていたのは、H28(奈良県76.00、全国平均51.71)の1回のみであった。

【図12-3】R5は、①郡山(2.78)、②吉野(2.33)、③中和(西)(1.17)、④奈良市(1.00)、⑤中和(東)(0.57)順であった。また、同一保健所管内の過去5年間の推移では、奈良市はR4とR5が同数で、共に過去5年間で最少であった。一方、郡山、中和(東)、中和(西)、吉野ではR5がR4を上回った。

【図12-4】最多の月は、10年平均が3月(1.37)で、R5は6月(0.32)であった。

【図12-5】10年平均では、1年を通して0.16(第4、16週)～0.38(第5週)の振幅内での推移であった。一方、R5は、0.00～0.18(6人)(第25週)の振幅内での推移であった。

【図12-6】4歳(9人)が最多。続いて7歳(7人)、2歳(6人)の順で、最少は0歳(0人)であった。年齢階級別報告数は[10-14歳]15人、[15-19歳]11人、[20-29歳]2人であった。

(柳生 善彦 記)

眼科定点分

13.急性出血性結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

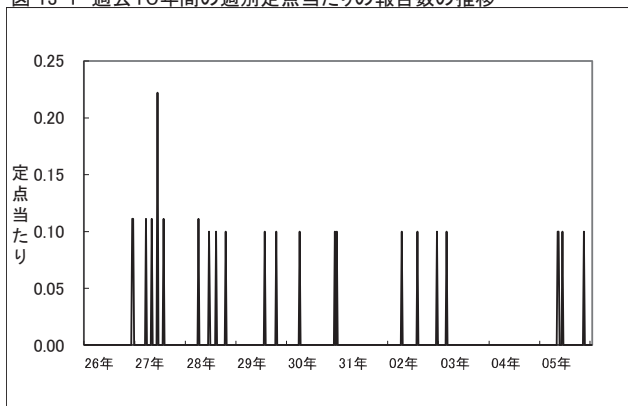


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

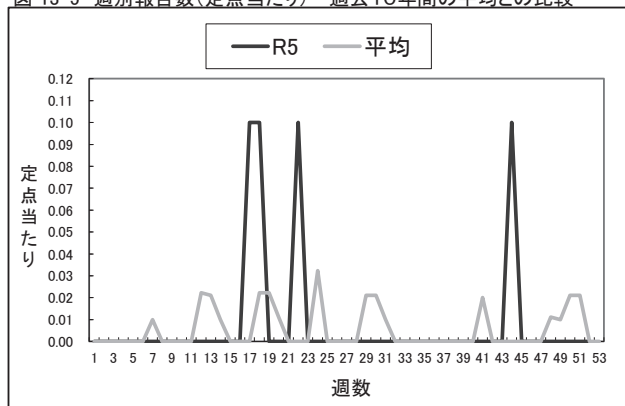


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

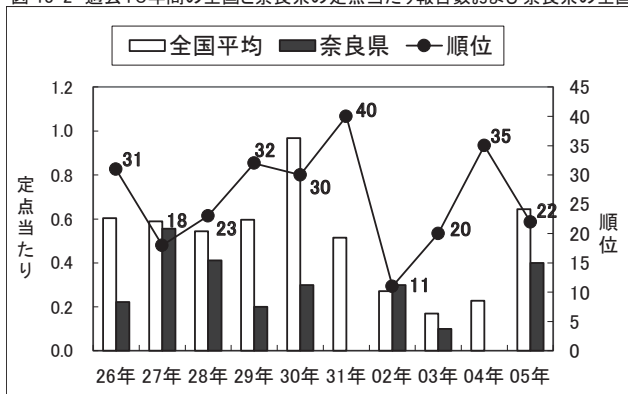


図 13-6 年齢別報告数(実数)

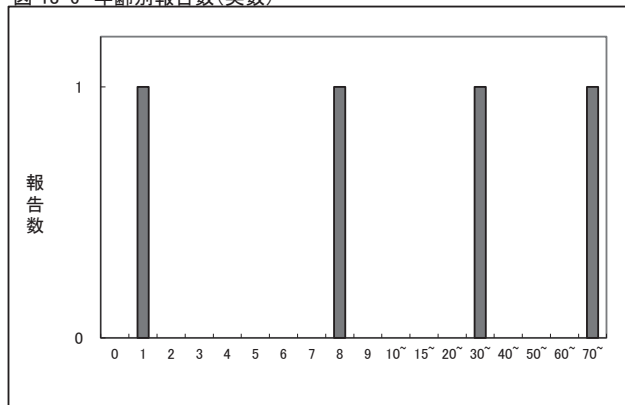
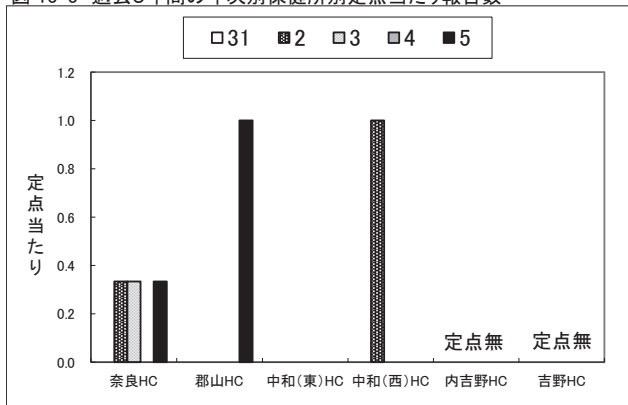
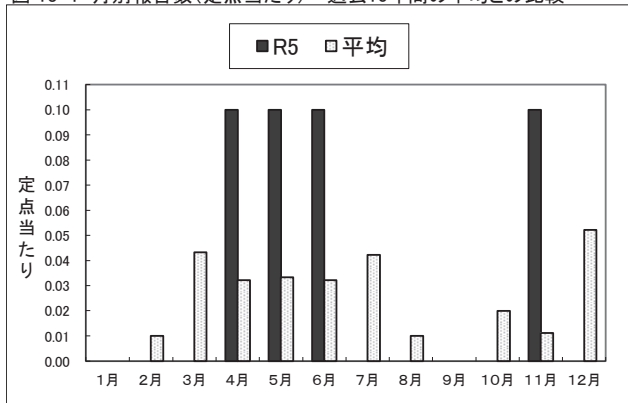


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 13-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点では4例の報告があり全国順位は22位であった。奈良市、郡山より報告があり、1歳1例、8歳1例、30歳代1例、70歳代1例であった。

(平井 宏明 記)

14.流行性角結膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

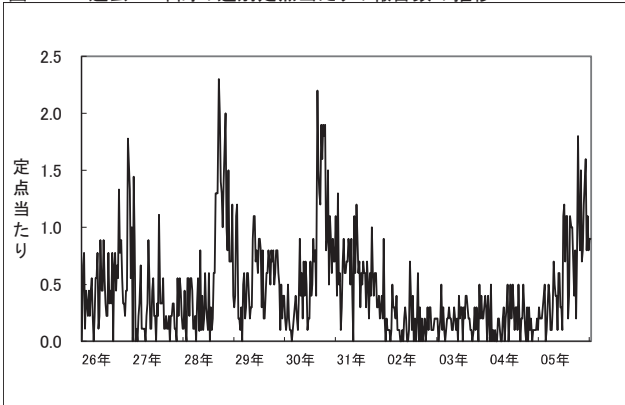


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

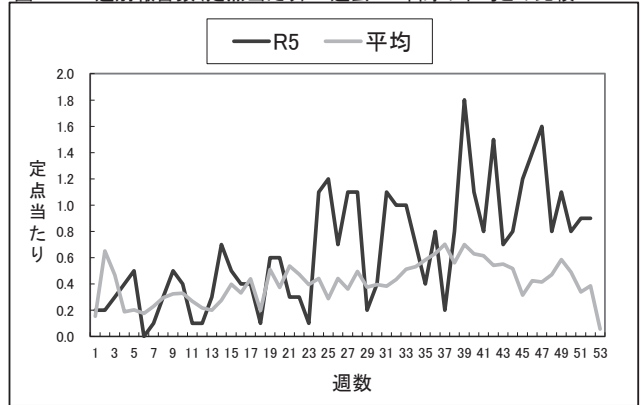


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

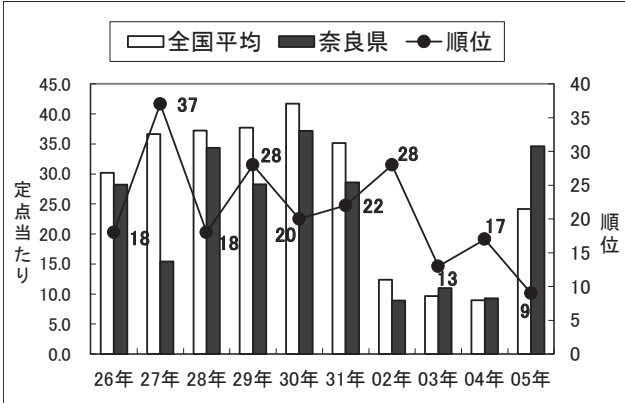


図 14-6 年齢別報告数(実数)

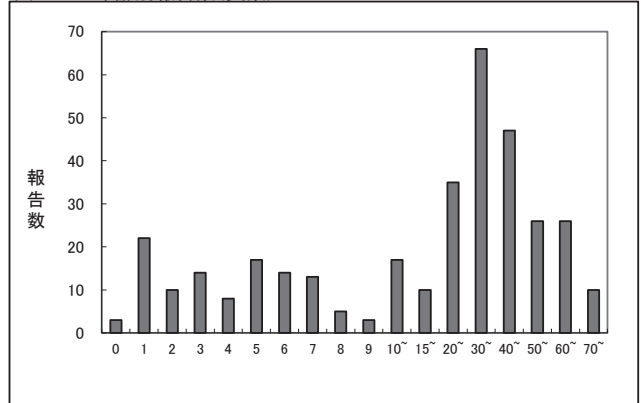
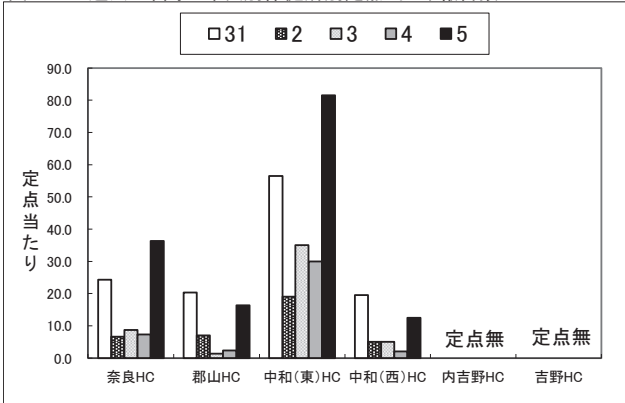
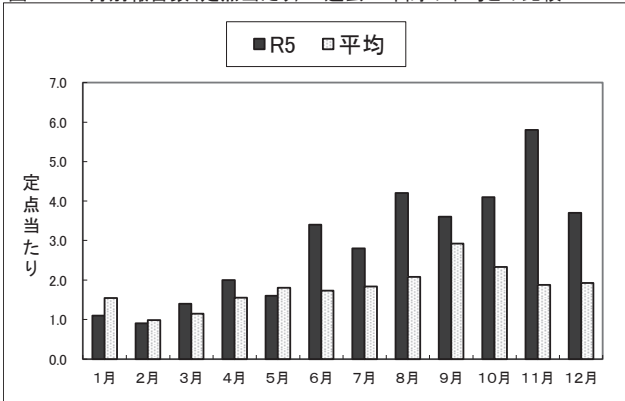


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体では346例の報告があった。前年の93例の3.72倍に増加していた。奈良県の定点あたりの報告数34.6(R4年は9.3)は全国平均24.2(R4年は9.0)の142%であった。順位は9位と昨年の17位より上がった。月別報告数の推移では、この10年間の平均では9月にピークとなったが、R5年度では11月をピークとするより大きな感染数の増加が認められた。39週に定点あたりの報告数が1.8と最大となり、47週の1.6、42週の1.5、46週の1.4がそれに続いた。定点あたりの報告数では、中和東が81.5と特に多く、奈良36.3、郡山16.3、中和西12.5と続いた。

年齢では30歳代が66例、20歳代が35例でこの2つで29.1%を占めた。9歳までの109例とほぼ同数なことは親子間での感染を示唆しているのかもしれない。次いで40歳代の47例が多かった。

(平井 宏明 記)

基幹定点分(週報)

15.細菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

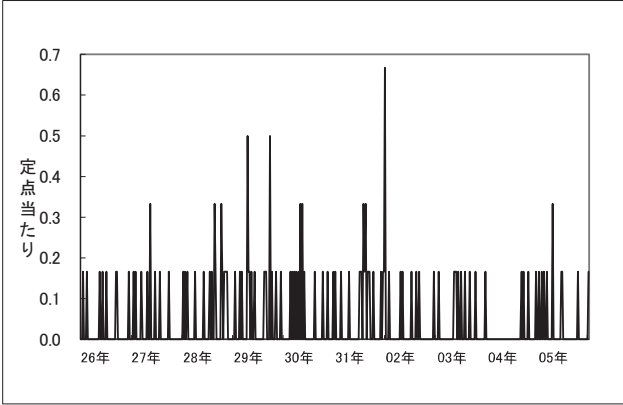


図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

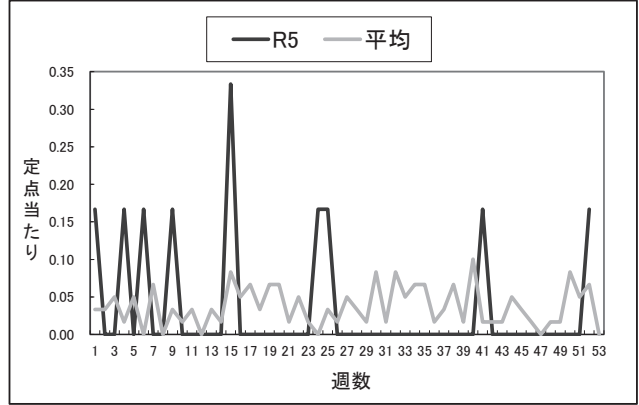


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

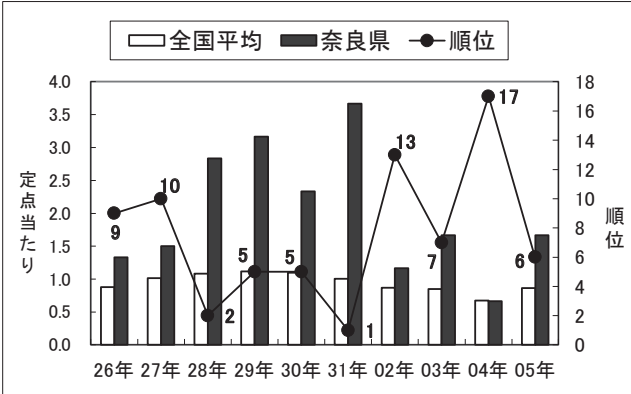


図 15-6 年齢別報告数(実数)

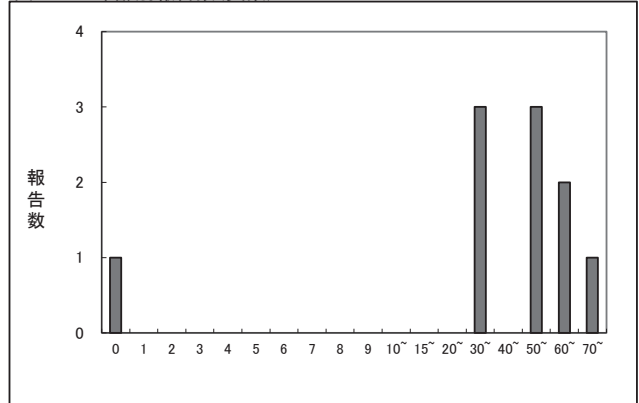
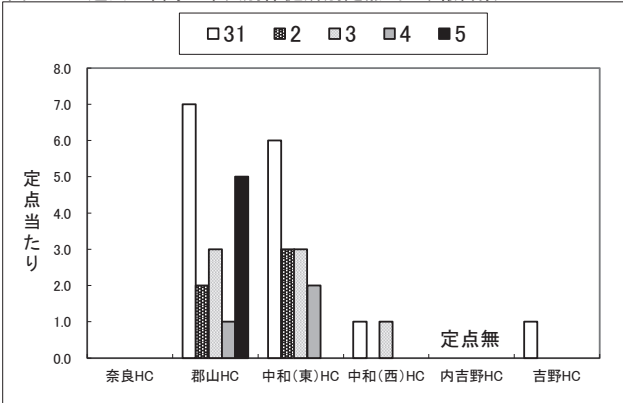
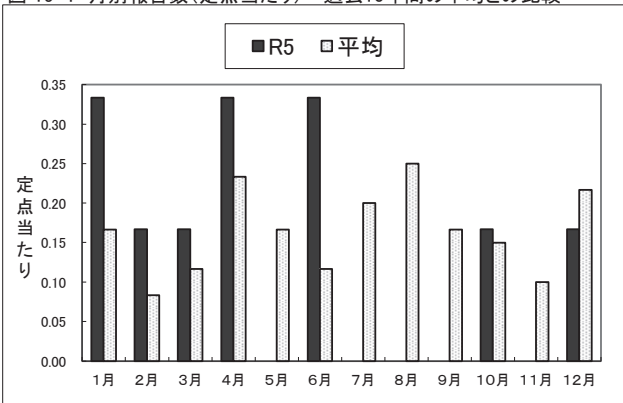


図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年の奈良県における報告数は10例で、定点あたりの報告数は1.67であった。奈良県はこれまでも細菌性髄膜炎の報告数が多い県であり、令和元年は全国ワースト1位、令和2年はワースト13位、令和3年は7位、令和4年は17位と全国と比べ例年多い傾向にあり、令和5年も6位であった。年齢別では、30歳以上の成人と0歳の乳児からの発症であった。細菌性髄膜炎の原因菌に対するワクチンで国内で唯一市販されているのは23価の肺炎球菌多糖体ワクチンである。高齢者のワクチン接種状況や他県との接種率の差は不明だが、最も頻度の高い肺炎球菌へのワクチン接種の実施率上昇の余地がいまだ残されていると思われる。

(矢野 寿一 記)

16.無菌性髄膜炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

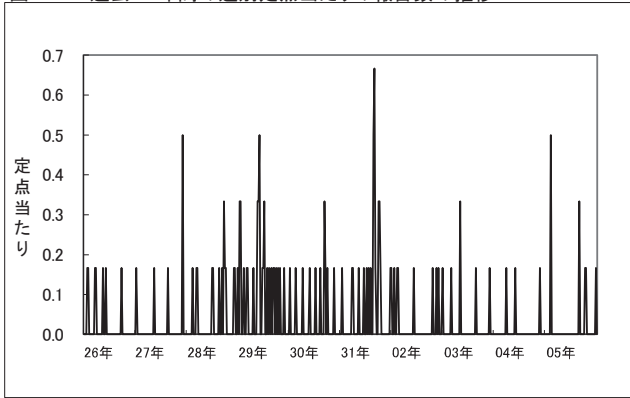


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

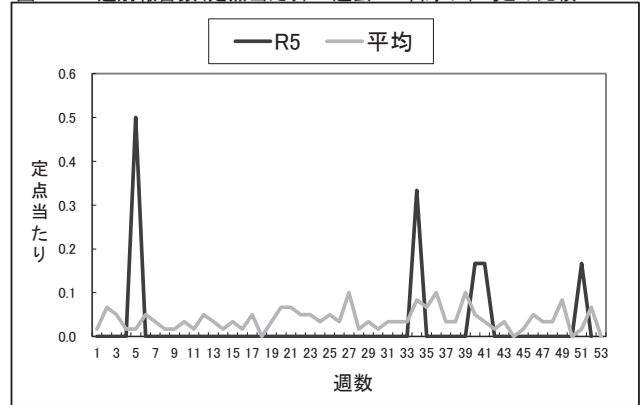


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

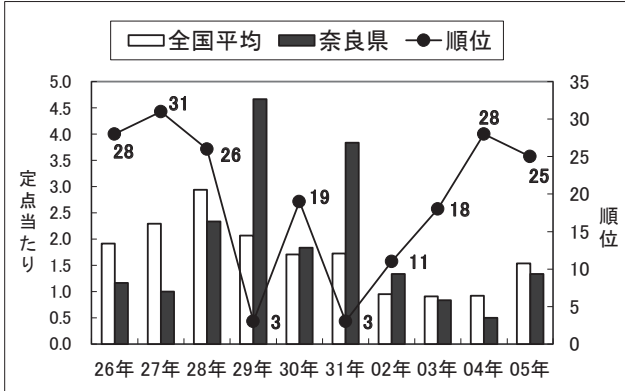


図 16-6 年齢別報告数(実数)

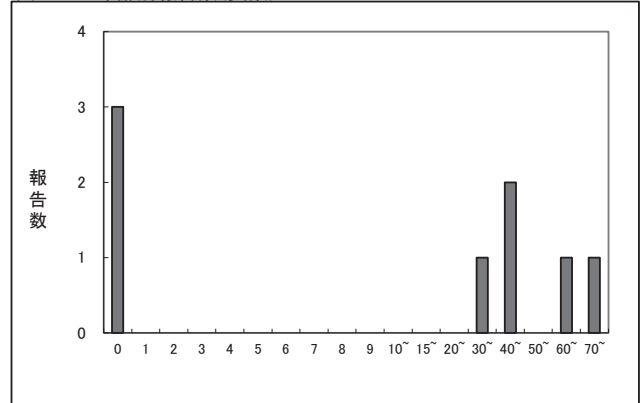
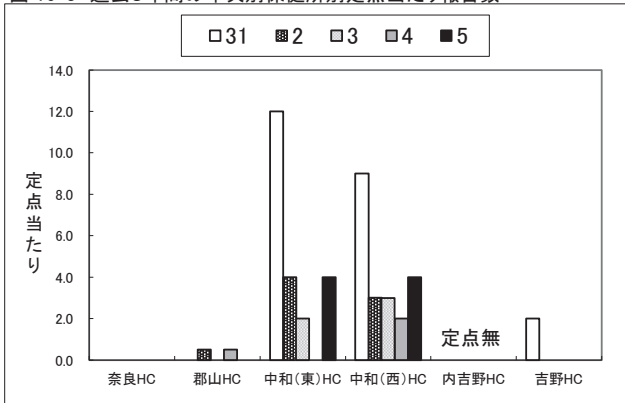
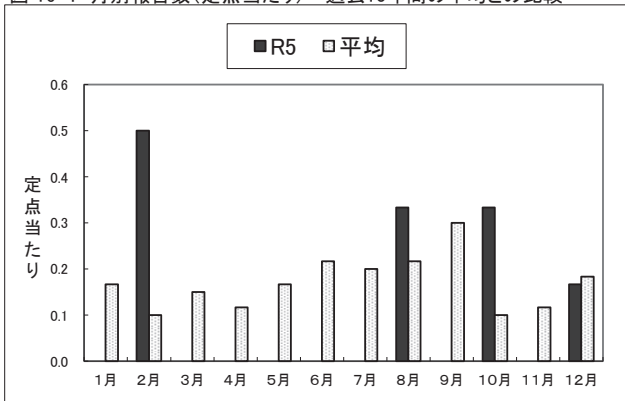


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県における令和5年の報告数は8例、定点あたりの報告数は1.3であった。奈良県からの無菌性髄膜炎報告数は多い傾向にあったが、令和5年は全国平均レベルであった。無菌性髄膜炎は、エンテロウイルス属であるコクサッキーウイルス、エコーウイルスなどが原因となることが多いことから、例年、初夏から増加し始め、夏から秋にかけて流行が見られる傾向にあるが、令和5年は例数が少ないこともあり明らかな季節性は見られなかった。令和6年は手足口病が流行していることもあり、無菌性髄膜炎の増加が懸念される。

(矢野 寿一 記)

17.マイコプラズマ肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

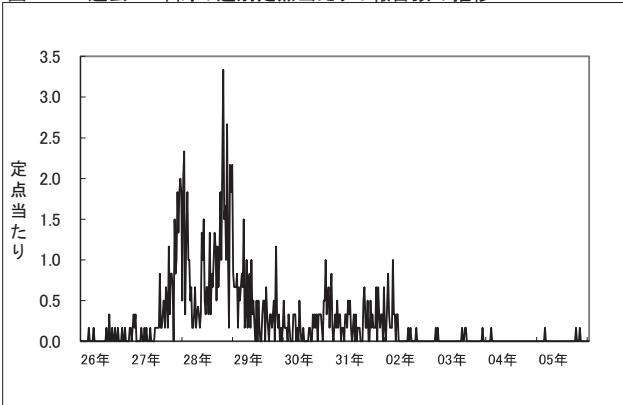


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

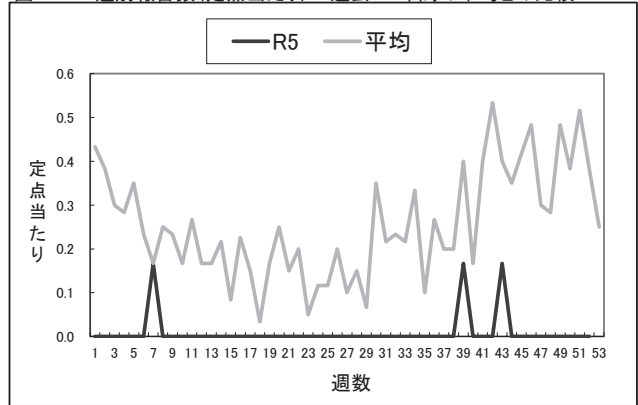


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

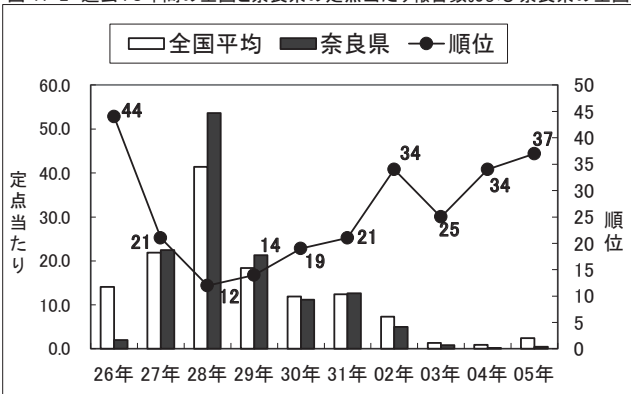


図 17-6 年齢別報告数(実数)

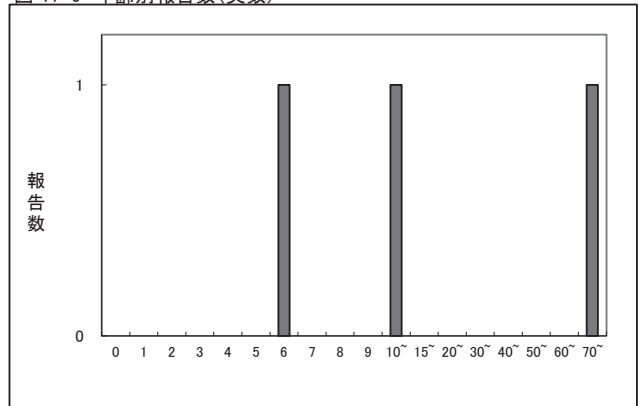
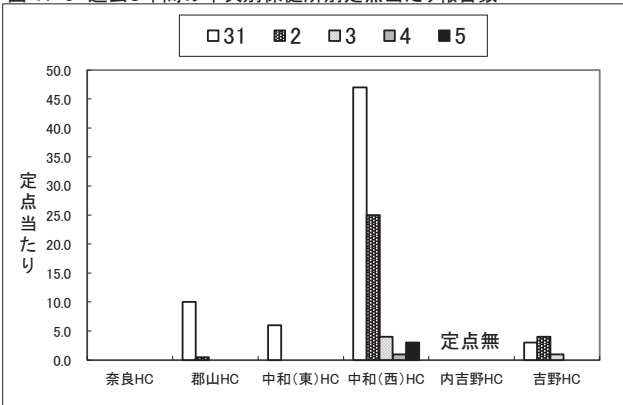
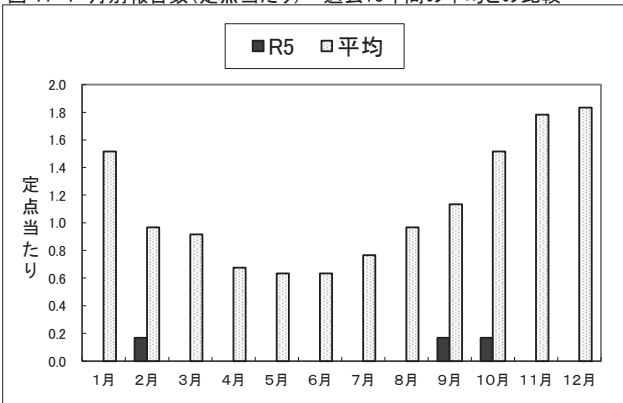


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年における奈良県マイコプラズマ肺炎の報告数は3例、定点当たりの報告数は0.5で、例年どおり奈良県は低い検出数で推移している。近年はマイコプラズマの流行に4年周期という規則性が見られなくなり、また、COVID-19の流行以降、毎年起こる秋冬期のマイコプラズマ肺炎の報告数増加も見られていない。しかしながら令和6年は報告数増加が予想されているようである。

(矢野 寿一 記)

18.クラミジア肺炎

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

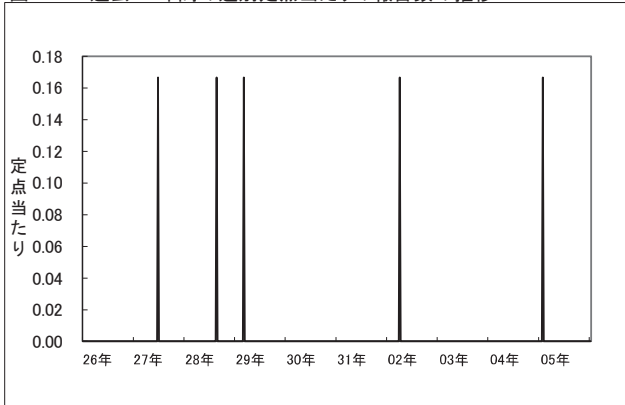


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

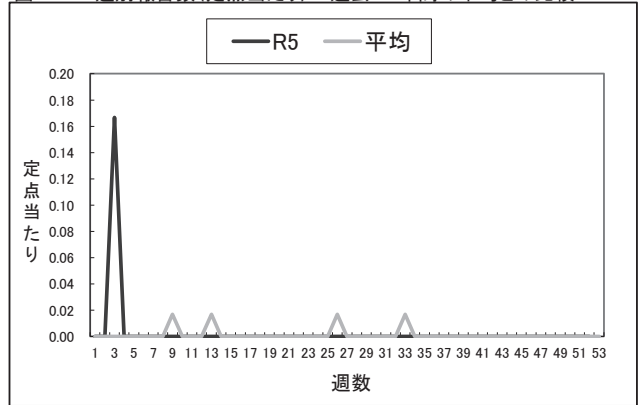


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

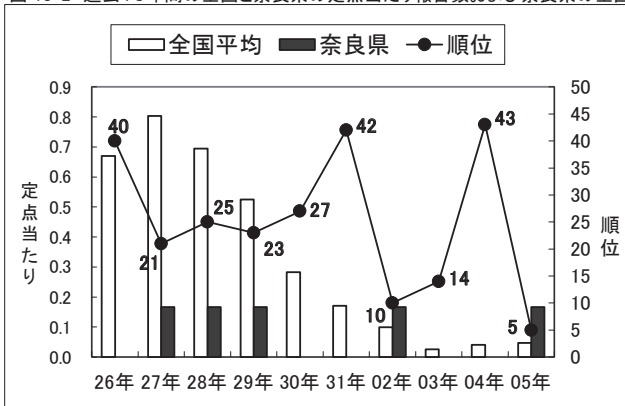


図 18-6 年齢別報告数(実数)

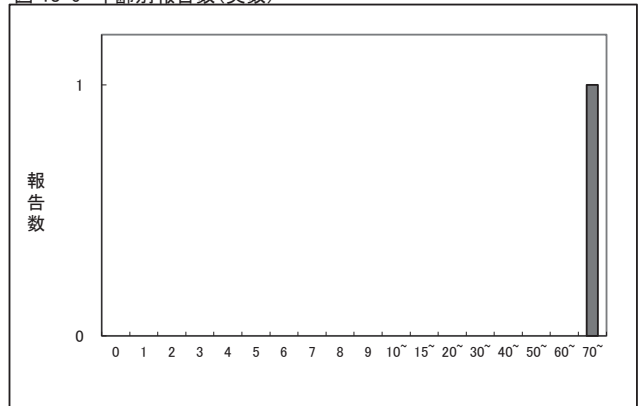
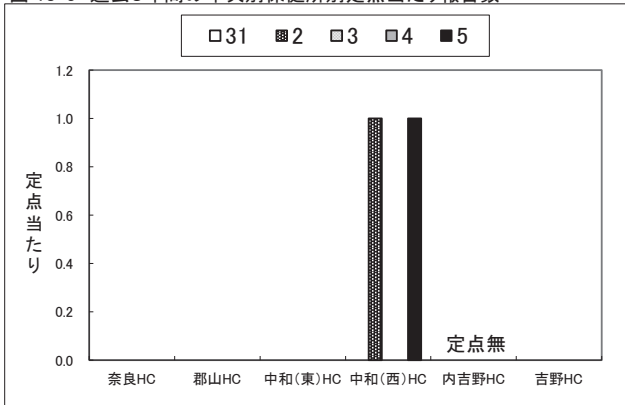
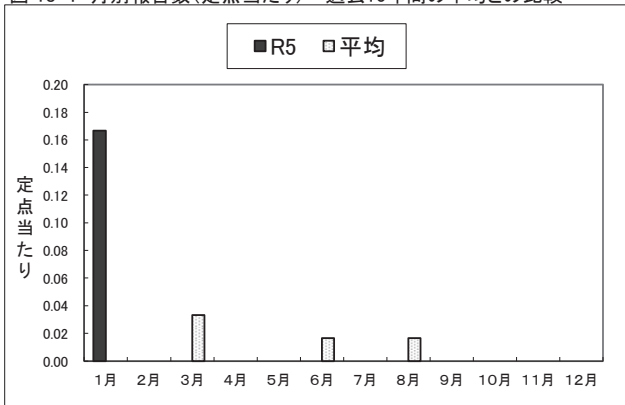


図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年におけるクラミジア肺炎の報告数は1例、定点あたりの報告数は0.17で令和2年以来の報告がみられた。診断するのは複雑なこともあり、例年通り低い検出数で推移していることに変わりはないようである。

(矢野 寿一 記)

19. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 19-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

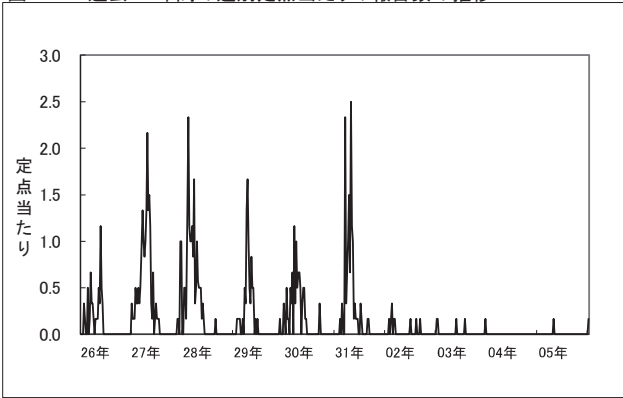


図 19-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

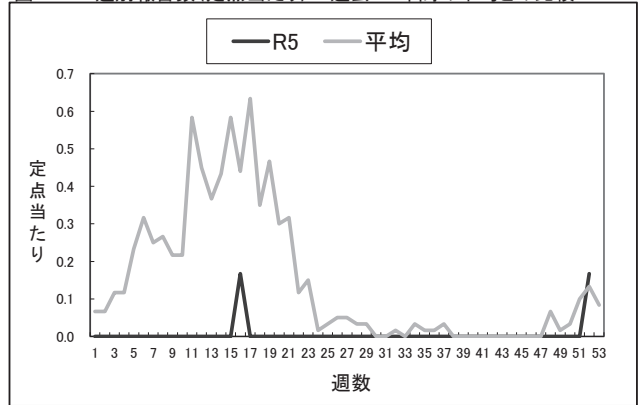


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

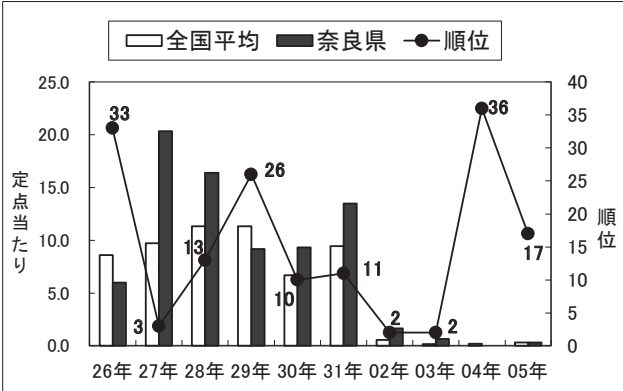


図 19-6 年齢別報告数(実数)

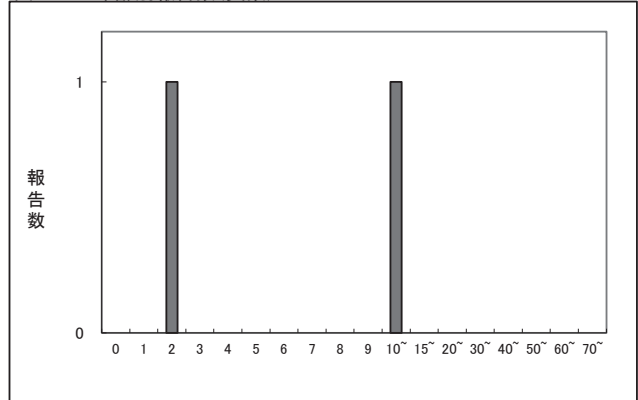
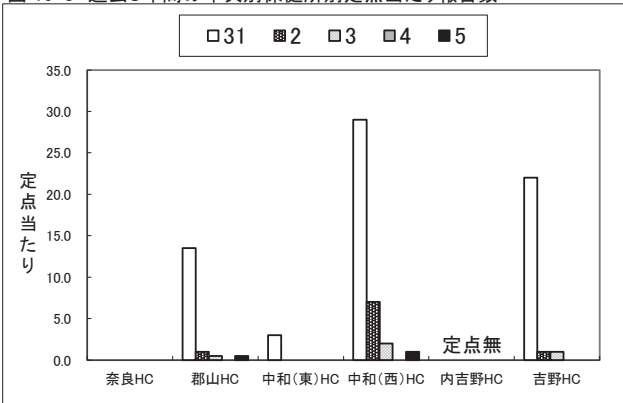
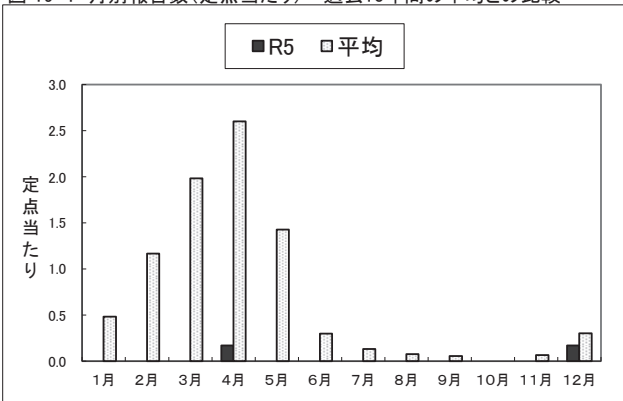


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年の奈良県における報告数は2件であった。令和2年以降、全国においても奈良県においても定数あたり報告数は大きく減少しており、ロタウイルスワクチン導入による効果と推察される。

(矢野 寿一 記)

性感染症(STD)定点分

20.性器クラミジア感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

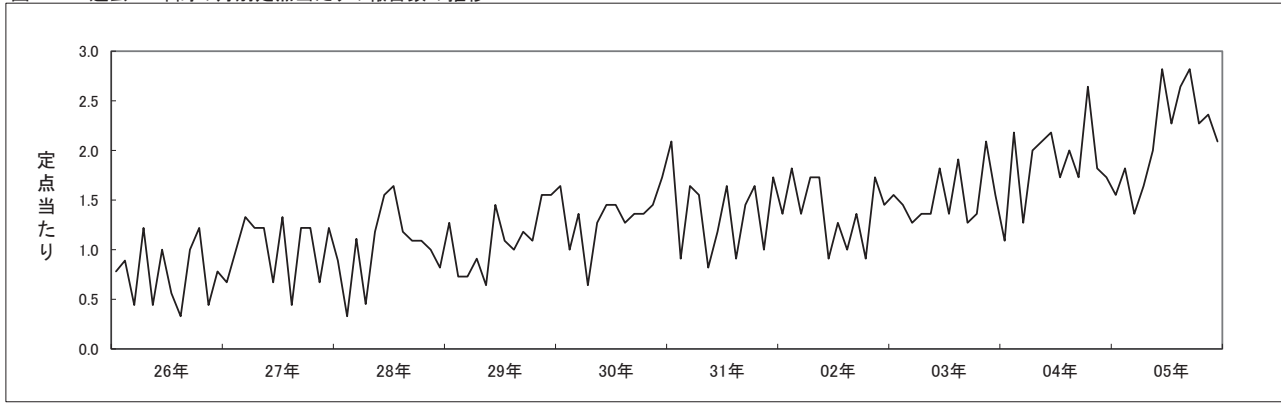


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

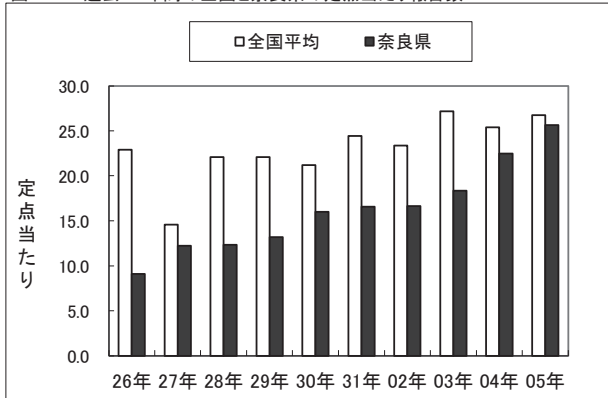


図 20-5 年齢別報告数(実数)

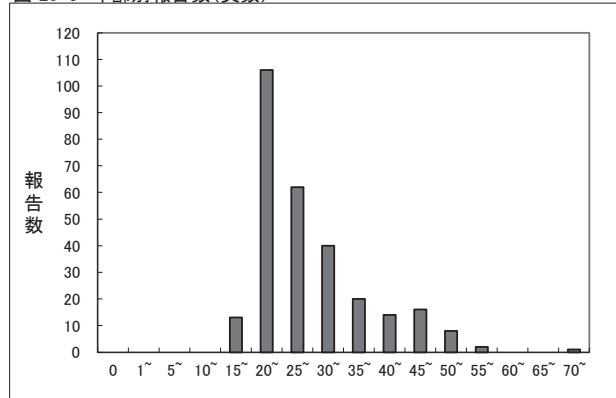
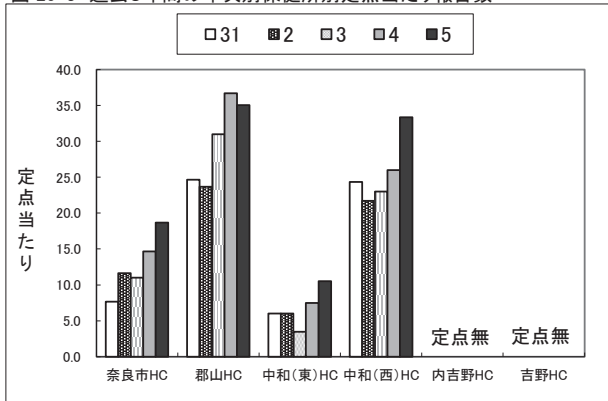
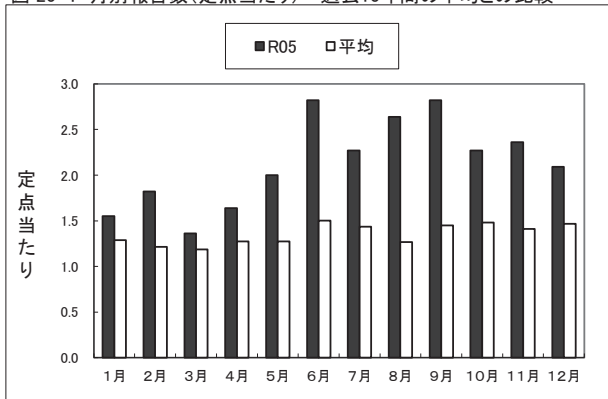


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

近年、若年者における性感染者の増加が社会的問題となっている。クラミジア感染症においては経年的に右肩上がりの報告数増加が顕著で、この10年間年々増加し、令和5年はほぼ全国平均に近づいている。STD4疾患における定点当たりの報告数は性器クラミジア感染症が最多で、他の3疾患の約5倍の報告数であった。年齢別では、20歳代の報告が最多で年齢が上がるにつれて減少し、最高齢は70歳以上である。また、20歳以下の報告も少なからずある。保健所別定点では、郡山保健所が例年通り最多であるが、中和(西)の増加が著明であった。月別では、例年と比較して年間を通して報告数が増加しているが、6～9月の夏場にピークが認められた。

(三馬 省二 記)

21.性器ヘルペスウイルス感染症

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

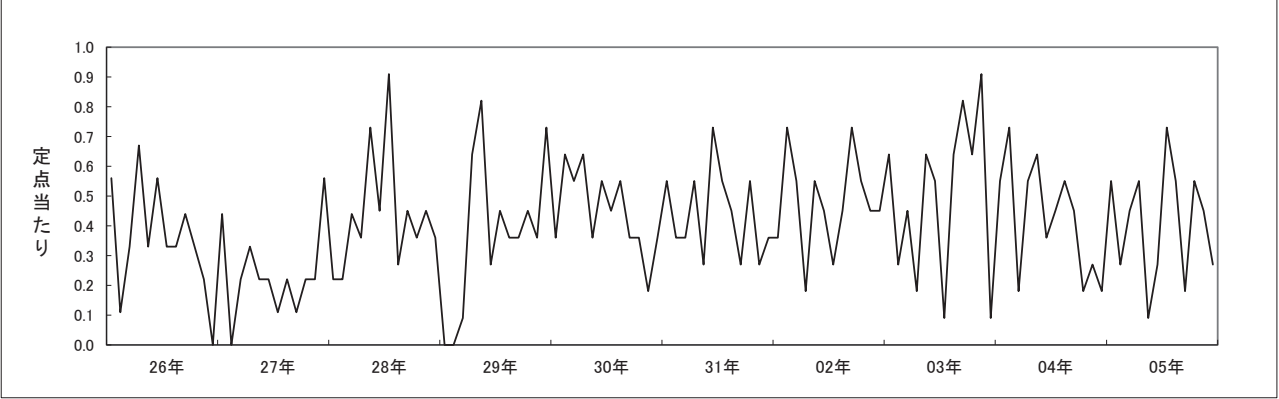


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

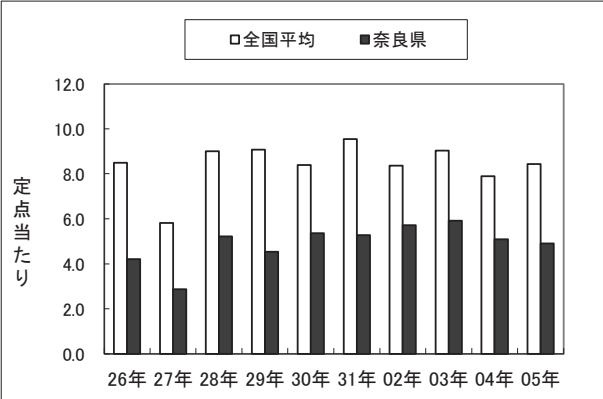


図 21-5 年齢別報告数(実数)

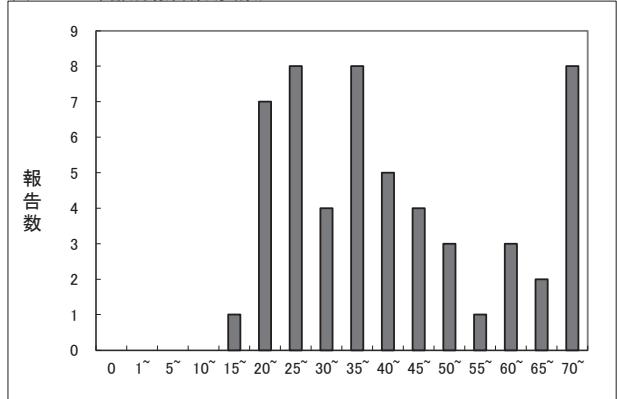
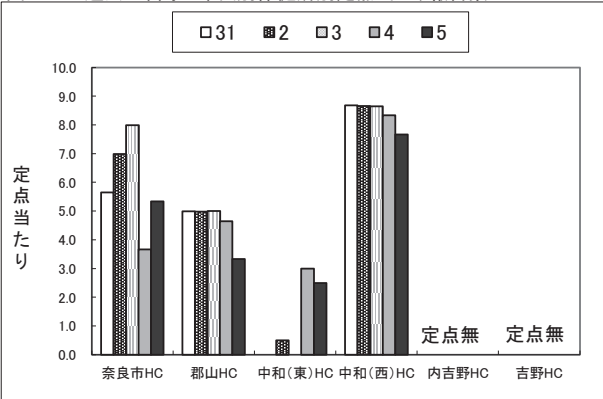
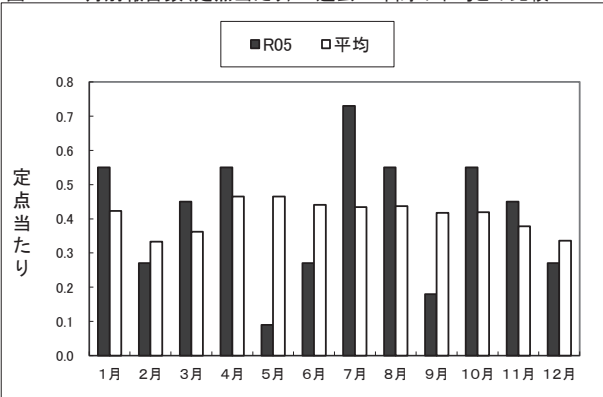


図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

性器ヘルペスウイルス感染症はほぼ例年並みの報告数で、全国平均を下回っており、若干減少気味である。年齢別ではほぼ全年齢層で報告されている。他の3つのSTD定点把握疾患と異なり、70歳以上の高齢層において多数の報告があったことが特徴的であった。

保健所別では、令和5年も中和(西)が最多であった。月別では、過去10年の平均と比較して、各月によるばらつきが認められた。

(三馬 省二 記)

22.尖圭コンジローマ

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

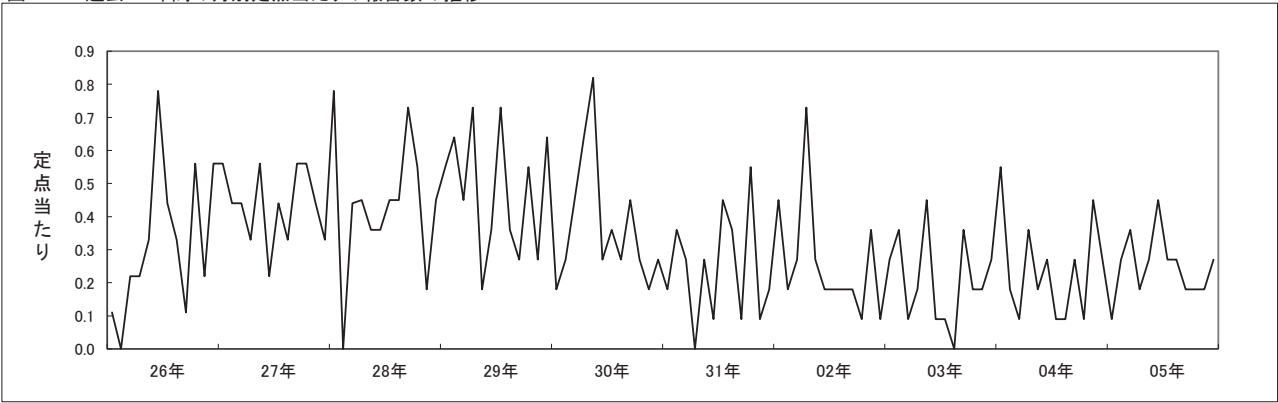


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

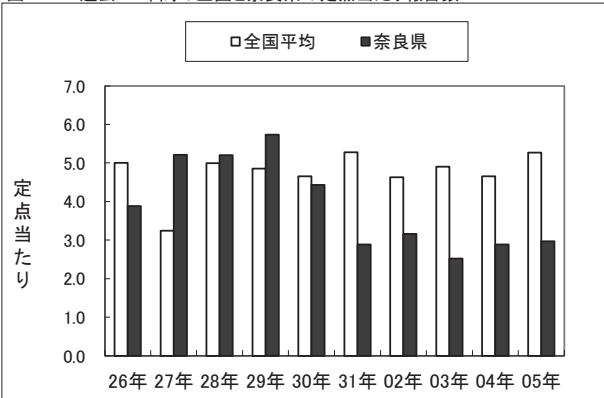


図 22-5 年齢別報告数(実数)

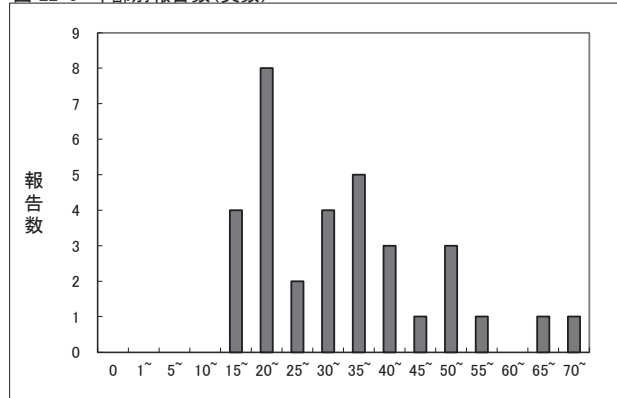
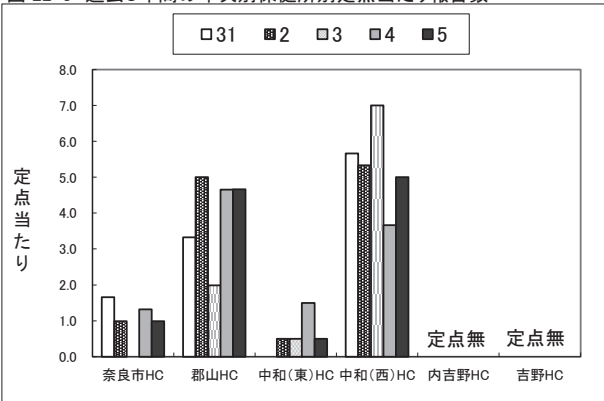
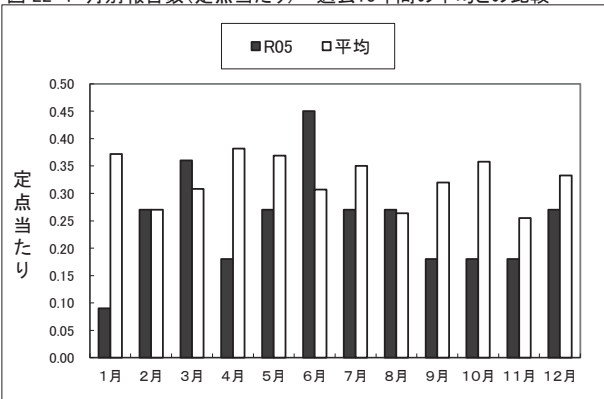


図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

尖圭コンジローマは平成年代後期には全国平均を上回っていたが、令和に入って減少し、全国平均をかなり下回ったままほぼ増減なく経過している。年齢別ではやはり20～30歳代の若年層が多いが、20歳以下でも相当数が報告されている。保健所別では中和(西)が最多であるが、郡山とほぼ同数となっている。月別では、夏場に多い傾向がみられた。

(三馬 省二 記)

23.淋菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

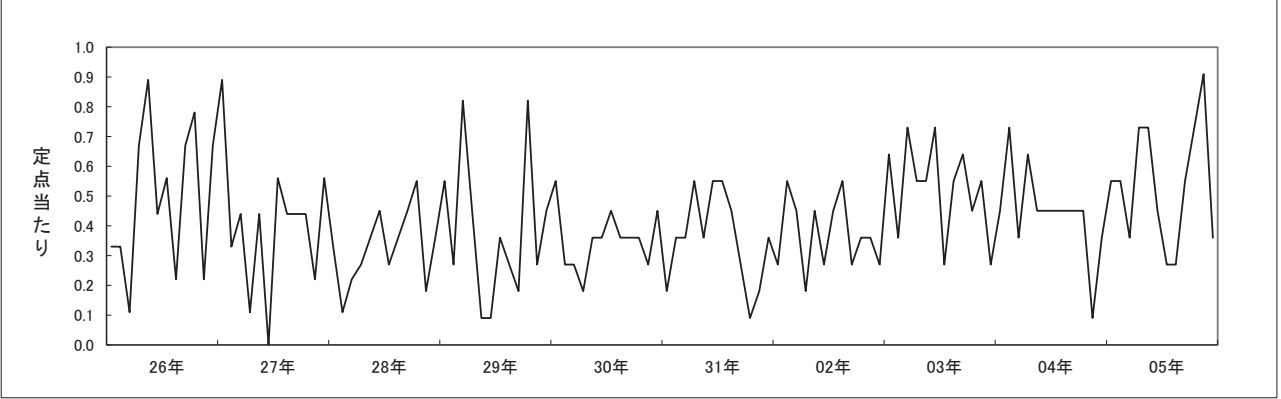


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

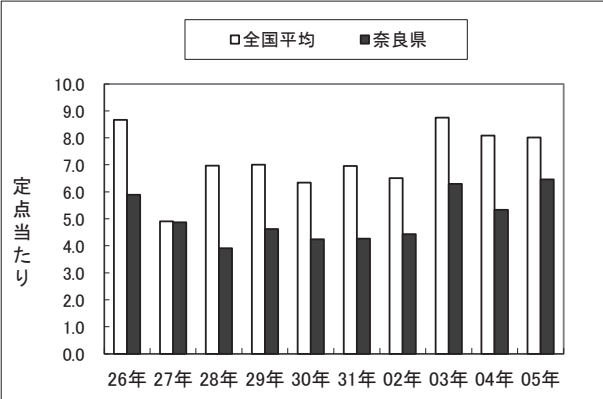


図 23-5 年齢別報告数(実数)

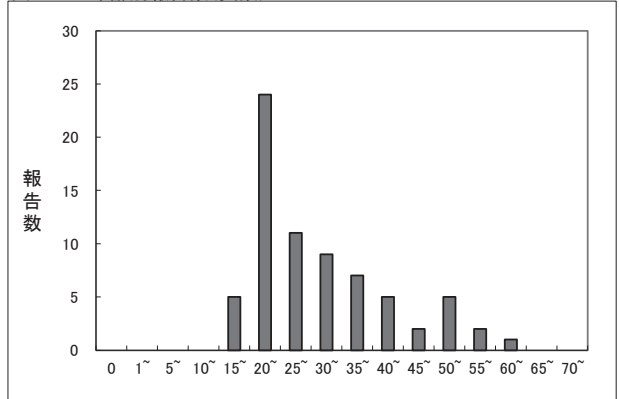
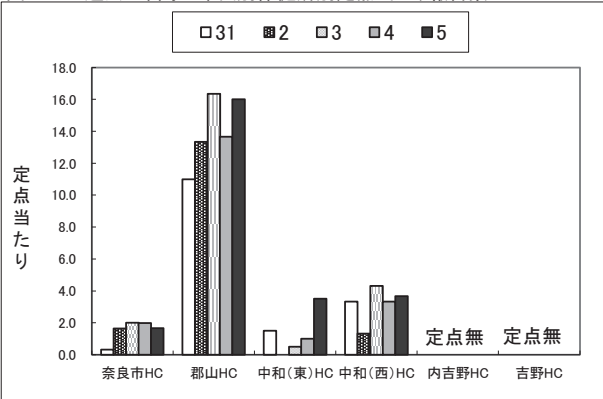
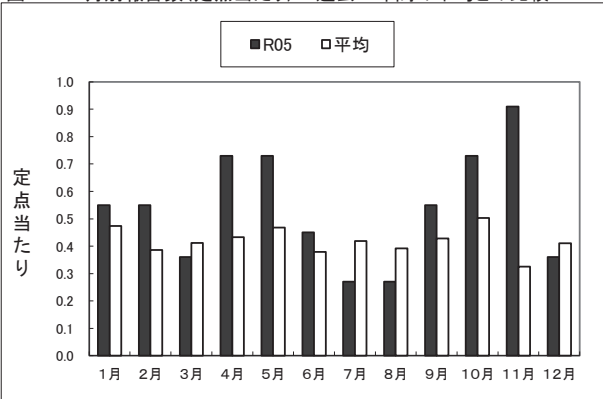


図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

淋菌感染症報告数は、令和2年までは横ばいであったが、令和3年から増加傾向にある。年齢別では20～25歳が圧倒的に多いが、20歳以下でも報告がみられ、最高齢は60歳代であった。保健所別では、例年通り圧倒的に郡山保健所分が多い。月別では平均では差がみられないが、令和5年は4～5月と10～11月に2峰性のピークが認められた。

(三馬 省二 記)

基幹定点分(月報)

24.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

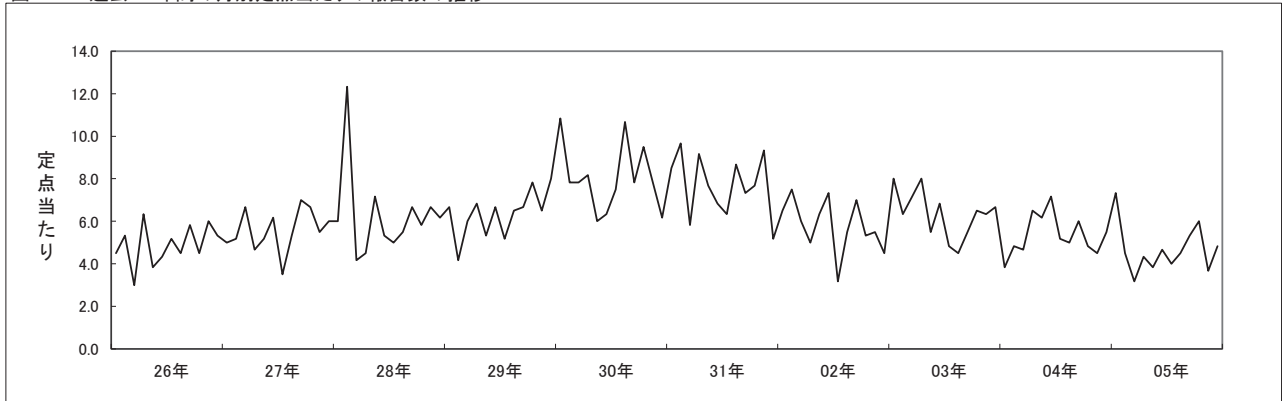


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

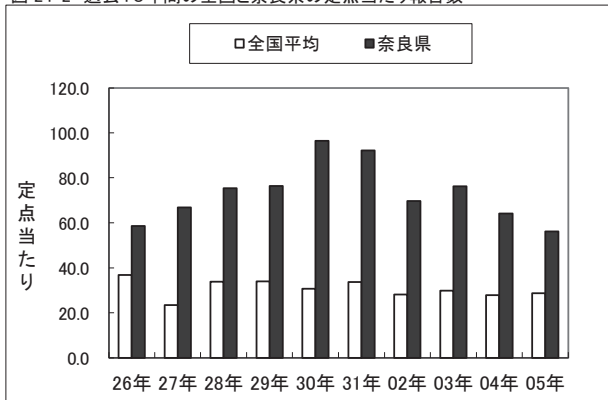


図 24-5 年齢別報告数(実数)

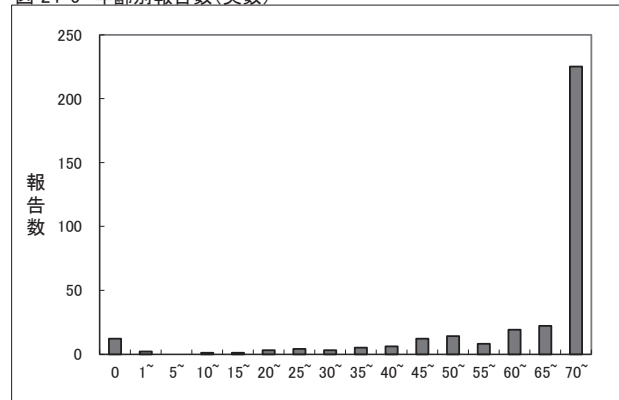
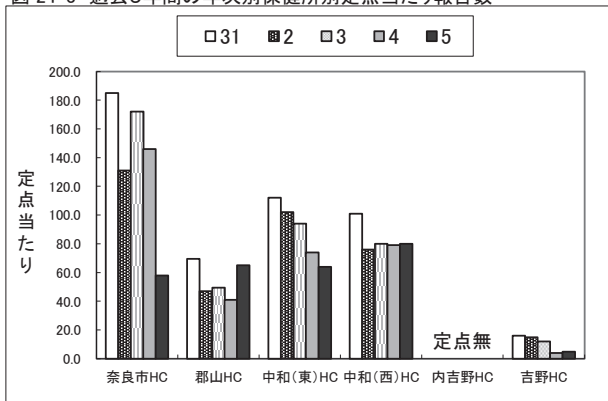
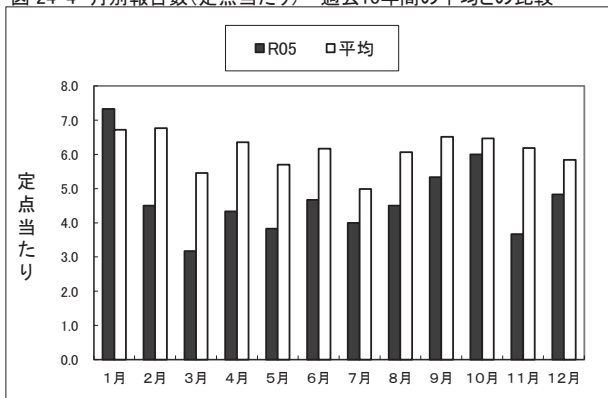


図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 24-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年の奈良県における報告数は337例で、定点あたりの報告数は56.2であった。奈良県は例年MRSAの報告数が多く、令和5年も平成28年以降同様全国ワースト1位で、8年連続ワースト1位となった。分離数に季節性は見られず、年齢も70歳以上からの分離率が極めて高い点は令和4年と同様であった。

近年、奈良県を含め全国的に市中感染型MRSAという耐性菌の報告が増えている。市中感染型MRSAは、従来の院内感染型MRSAに比べ病原性が高く伝播拡散しやすい性質があり、注意が必要である。奈良県において家庭内感染症として難治性の市中感染型MRSA感染症が報告されている。院内感染型MRSAについても、拡散防止のため医療機関の医療関連感染対策のさらなる徹底が必要であろう。

(矢野 寿一 記)

25.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

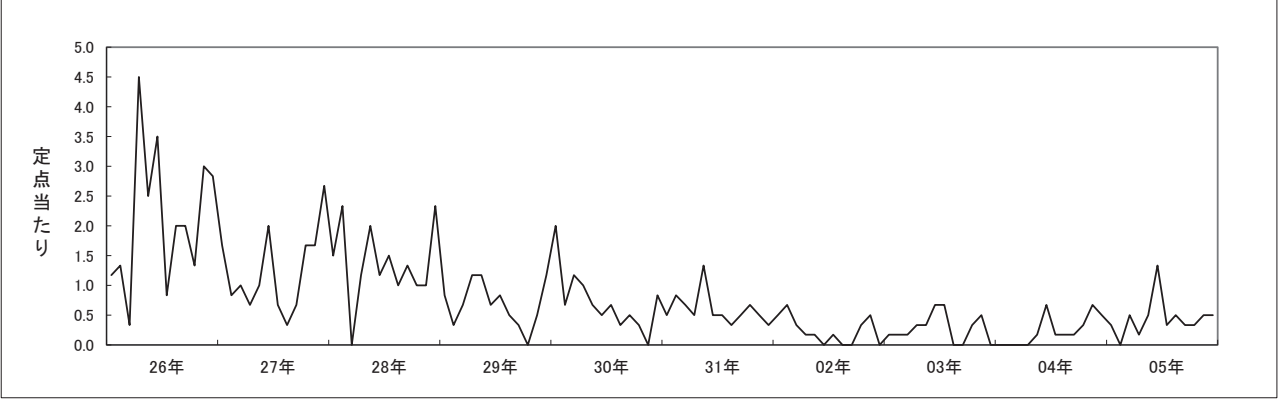


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

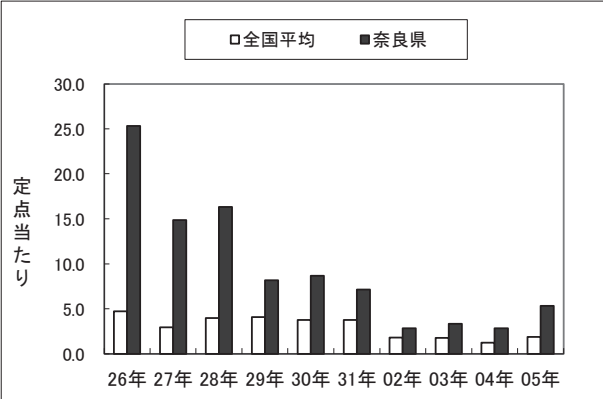


図 25-5 年齢別報告数(実数)

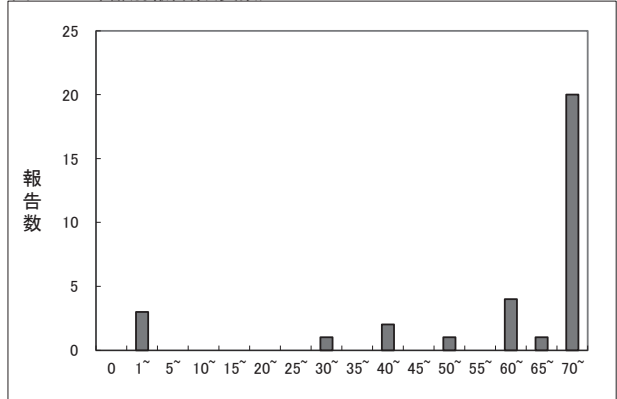
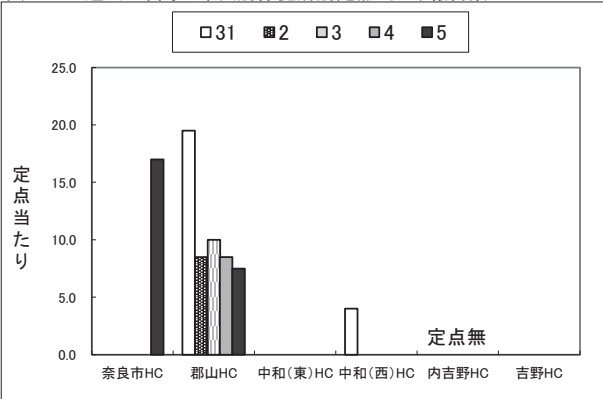
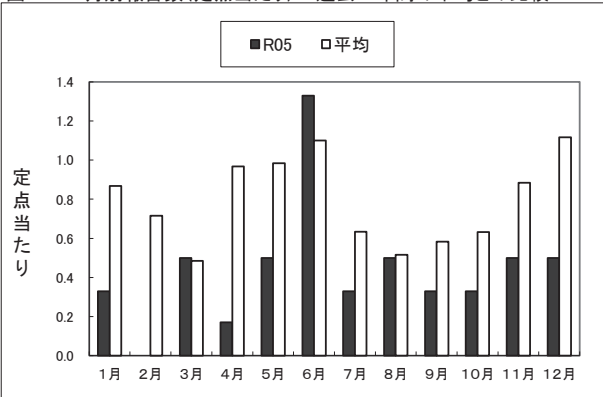


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 25-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県の令和5年における報告数は32例、定点あたりの報告数は5.32であった。令和4年の報告数17例、定点あたり報告数2.85に比べ増加しているが、これは全国においても奈良県ほどの増加率ではないが同様の傾向が見られる。全国順位もワースト5位で、令和4年もワースト8位と悪い順位が維持されている。年齢別報告数は令和4年同様に70歳以上が多くを占めている。

ワクチンがカバーしている肺炎球菌血清型は多く、ワクチン接種がペニシリン耐性肺炎球菌分離率を下げたことが知られている。しかし近年、ワクチンでカバーされていない血清型のペニシリン耐性肺炎球菌が増加傾向のようで、本調査でのペニシリン耐性肺炎球菌の増加は同様の現象である可能性がある。今後の動向に注意が必要であろう。

(矢野 寿一 記)

26.薬剤耐性緑膿菌感染症

図 26-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

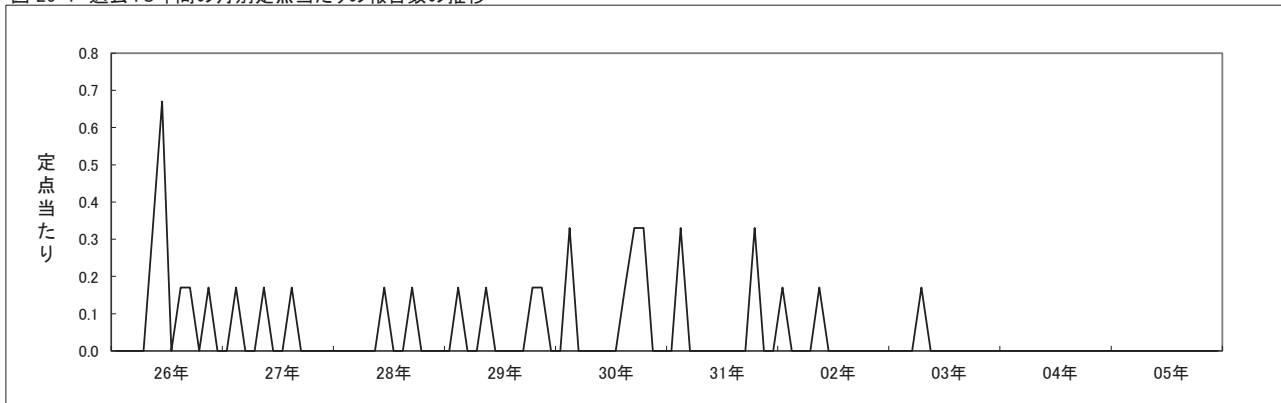


図 26-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

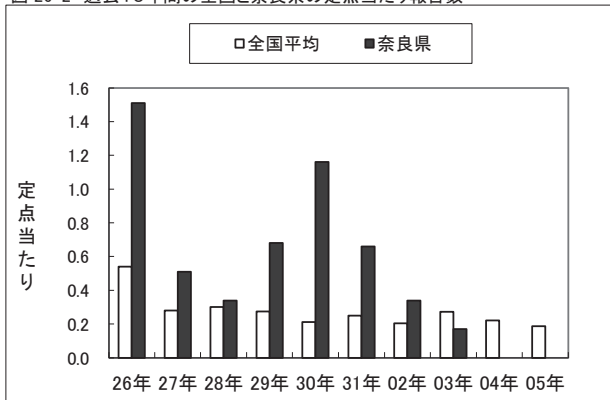


図 26-5 年齢別報告数(実数)

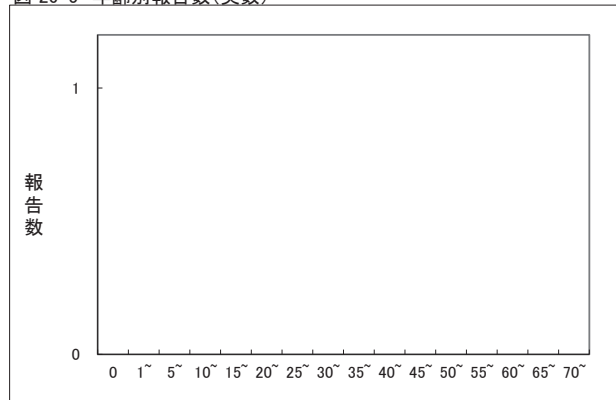
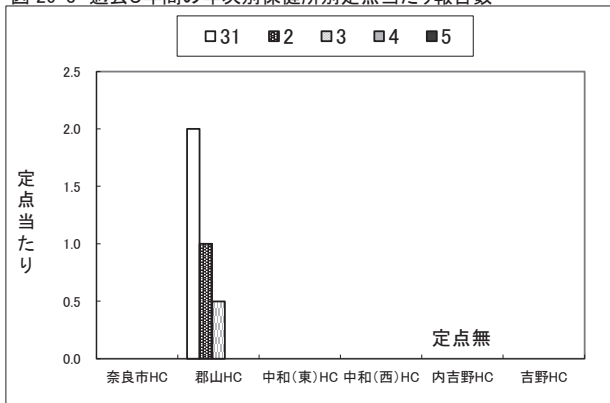
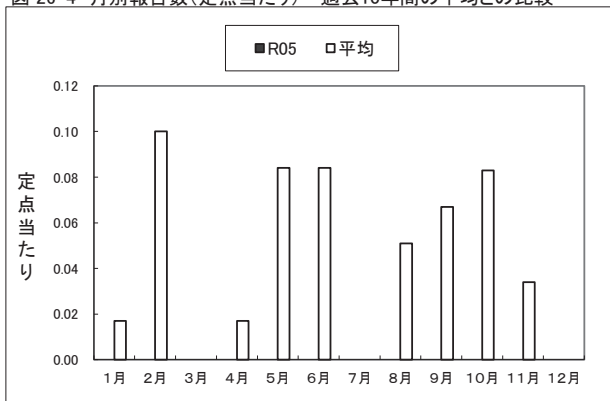


図 26-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 26-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和5年の奈良県における全報告数は0例で、令和4年と同様であった。これは全国的な傾向のようで、定点あたりの全国平均報告数も徐々に減少してきている。薬剤耐性緑膿菌の減少には感染対策と抗菌薬適正使用(特にカルバペネム系薬)が重要となる菌種であり、各医療機関における適切な対応により今後も減少傾向が維持されることを期待する。

(矢野 寿一 記)

表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	1,951	3,751	1,915	233	150	102	105	263	941	1,906	5,855	5,247	22,419
新型コロナウイルス感染症	0	0	0	0	495	1,541	2,916	4,978	3,130	844	600	903	15,407
RSウイルス感染症	9	42	74	264	424	731	298	96	27	7	2	9	1,983
咽頭結膜熱	28	17	23	22	52	108	100	215	395	619	957	404	2,940
A群溶連菌咽頭炎	36	33	46	64	114	338	391	299	411	475	579	471	3,257
感染症胃腸炎	561	881	1,095	732	841	866	451	495	412	393	739	690	8,156
水痘	7	8	10	4	3	21	19	22	9	7	21	15	146
手足口病	39	18	9	34	39	91	38	63	69	60	85	111	656
伝染性紅斑	0	3	1	0	3	3	0	1	1	1	3	0	16
突発性発しん	35	25	37	37	43	56	37	46	34	33	41	23	447
ヘルパンギーナ	4	4	5	9	150	821	446	101	58	21	18	10	1,647
流行性耳下腺炎	1	2	2	3	7	11	1	5	2	3	10	5	52
急性出血性結膜炎	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	4
流行性角結膜炎	11	9	14	20	16	34	28	42	36	41	58	37	346
細菌性髄膜炎	2	1	1	2	0	2	0	0	0	1	0	1	10
無菌性髄膜炎	0	3	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	8
マイコプラズマ肺炎	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
クラミジア肺炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
性器クラミジア感染症	17	20	15	18	22	31	25	29	31	25	26	23	282
性器ヘルペスウイルス感染症	6	3	5	6	1	3	8	6	2	6	5	3	54
尖圭コンジローマ	1	3	4	2	3	5	3	3	2	2	2	3	33
淋菌感染症	6	6	4	8	8	5	3	3	6	8	10	4	71
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	44	27	19	26	23	28	24	27	32	36	22	29	337
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0	3	1	3	8	2	3	2	2	3	3	32
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	35.47	68.20	34.82	4.24	2.73	1.85	1.91	4.78	17.11	34.65	106.45	95.40	407.62
新型コロナウイルス感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	9.00	28.02	53.02	90.51	56.91	15.35	10.91	16.42	280.13
RSウイルス感染症	0.26	1.24	2.18	7.76	12.47	21.50	8.76	2.82	0.79	0.21	0.06	0.26	58.32
咽頭結膜熱	0.82	0.50	0.68	0.65	1.53	3.18	2.94	6.32	11.62	18.21	28.15	11.88	86.47
A群溶連菌咽頭炎	1.06	0.97	1.35	1.88	3.35	9.94	11.50	8.79	12.09	13.97	17.03	13.85	95.79
感染症胃腸炎	16.50	25.91	32.21	21.53	24.74	25.47	13.26	14.56	12.12	11.56	21.74	20.29	239.88
水痘	0.21	0.24	0.29	0.12	0.09	0.62	0.56	0.65	0.26	0.21	0.62	0.44	4.29
手足口病	1.15	0.53	0.26	1.00	1.15	2.68	1.12	1.85	2.03	1.76	2.50	3.26	19.29
伝染性紅斑	0.00	0.09	0.03	0.00	0.09	0.09	0.00	0.03	0.03	0.03	0.09	0.00	0.47
突発性発しん	1.03	0.74	1.09	1.09	1.26	1.65	1.09	1.35	1.00	0.97	1.21	0.68	13.15
ヘルパンギーナ	0.12	0.12	0.15	0.26	4.41	24.15	13.12	2.97	1.71	0.62	0.53	0.29	48.44
流行性耳下腺炎	0.03	0.06	0.06	0.09	0.21	0.32	0.03	0.15	0.06	0.09	0.29	0.15	1.53
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.40
流行性角結膜炎	1.10	0.90	1.40	2.00	1.60	3.40	2.80	4.20	3.60	4.10	5.80	3.70	34.60
細菌性髄膜炎	0.33	0.17	0.17	0.33	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.17	1.67
無菌性髄膜炎	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.33	0.00	0.17	1.33
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.17	0.00	0.00	0.50
クラミジア肺炎	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.33
性器クラミジア感染症	1.55	1.82	1.36	1.64	2.00	2.82	2.27	2.64	2.82	2.27	2.36	2.09	25.64
性器ヘルペスウイルス感染症	0.55	0.27	0.45	0.55	0.09	0.27	0.73	0.55	0.18	0.55	0.45	0.27	4.91
尖圭コンジローマ	0.09	0.27	0.36	0.18	0.27	0.45	0.27	0.27	0.18	0.18	0.18	0.27	3.00
淋菌感染症	0.55	0.55	0.36	0.73	0.73	0.45	0.27	0.27	0.55	0.73	0.91	0.36	6.45
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7.33	4.50	3.17	4.33	3.83	4.67	4.00	4.50	5.33	6.00	3.67	4.83	56.17
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.33	0.00	0.50	0.17	0.50	1.33	0.33	0.50	0.33	0.33	0.50	0.50	5.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

表3 疾患別・保健所別報告数

報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	4,408	5,399	4,446	6,748	1,418	9,807	11,194	1,418	22,419
新型コロナウイルス感染症	2,541	4,264	3,036	3,732	1,834	6,805	6,768	1,834	15,407
RSウイルス感染症	334	301	606	670	72	635	1,276	72	1,983
咽頭結膜熱	289	369	715	1,425	142	658	2,140	142	2,940
A群溶連菌咽頭炎	448	702	344	1,626	137	1,150	1,970	137	3,257
感染症胃腸炎	1,578	2,250	1,510	2,414	404	3,828	3,924	404	8,156
水痘	26	28	65	11	16	54	76	16	146
手足口病	180	206	123	136	11	386	259	11	656
伝染性紅斑	8	2	2	4	0	10	6	0	16
突発性発しん	128	87	90	129	13	215	219	13	447
ヘルパンギーナ	419	358	242	517	111	777	759	111	1,647
流行性耳下腺炎	9	25	4	7	7	34	11	7	52
急性出血性結膜炎	1	3	0	0	0	4	0	0	4
流行性角結膜炎	109	49	163	25	0	158	188	0	346
細菌性髄膜炎	0	10	0	0	0	10	0	0	10
無菌性髄膜炎	0	0	4	4	0	0	8	0	8
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	3	0	0	3	0	3
クラミジア肺炎	0	0	0	1	0	0	1	0	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	1	0	1	0	1	1	0	2
性器クラミジア感染症	56	105	21	100	0	161	121	0	282
性器ヘルペスウイルス感染症	16	10	5	23	0	26	28	0	54
尖圭コンジローマ	3	14	1	15	0	17	16	0	33
淋菌感染症	5	48	7	11	0	53	18	0	71
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	58	130	64	80	5	188	144	5	337
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	17	15	0	0	0	32	0	0	32
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0

定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	314.86	385.64	404.18	674.80	236.33	350.25	533.05	236.33	407.62
新型コロナウイルス感染症	181.50	304.57	276.00	373.20	305.67	243.04	322.29	305.67	280.13
RSウイルス感染症	37.11	33.44	86.57	111.67	24.00	35.28	98.15	24.00	58.32
咽頭結膜熱	32.11	41.00	102.14	237.50	47.33	36.56	164.62	47.33	86.47
A群溶連菌咽頭炎	49.78	78.00	49.14	271.00	45.67	63.89	151.54	45.67	95.79
感染症胃腸炎	175.33	250.00	215.71	402.33	134.67	212.67	301.85	134.67	239.88
水痘	2.89	3.11	9.29	1.83	5.33	3.00	5.85	5.33	4.29
手足口病	20.00	22.89	17.57	22.67	3.67	21.44	19.92	3.67	19.29
伝染性紅斑	0.89	0.22	0.29	0.67	0.00	0.56	0.46	0.00	0.47
突発性発しん	14.22	9.67	12.86	21.50	4.33	11.94	16.85	4.33	13.15
ヘルパンギーナ	46.56	39.78	34.57	86.17	37.00	43.17	58.38	37.00	48.44
流行性耳下腺炎	1.00	2.78	0.57	1.17	2.33	1.89	0.85	2.33	1.53
急性出血性結膜炎	0.33	1.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.40
流行性角結膜炎	36.33	16.33	81.50	12.50	0.00	26.33	47.00	0.00	34.60
細菌性髄膜炎	0.00	5.00	0.00	0.00	0.00	3.33	0.00	0.00	1.67
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	4.00	4.00	0.00	0.00	4.00	0.00	1.33
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	3.00	0.00	0.00	1.50	0.00	0.50
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.17
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.50	0.00	1.00	0.00	0.33	0.50	0.00	0.33
性器クラミジア感染症	18.67	35.00	10.50	33.33	0.00	26.83	24.20	0.00	25.64
性器ヘルペスウイルス感染症	5.33	3.33	2.50	7.67	0.00	4.33	5.60	0.00	4.91
尖圭コンジローマ	1.00	4.67	0.50	5.00	0.00	2.83	3.20	0.00	3.00
淋菌感染症	1.67	16.00	3.50	3.67	0.00	8.83	3.60	0.00	6.45
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	58.00	65.00	64.00	80.00	5.00	62.67	72.00	5.00	56.17
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	17.00	7.50	0.00	0.00	0.00	10.67	0.00	0.00	5.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00